

**Activities of the
Research Center for
Urban Safety and Security
Kobe University
(Fiscal Year 2020)**

神戸大学都市安全研究センター | 令和三年三月

神戸大学

都市安全研究センター

活動報告 第二十五号

RCUSS

Research Center for Urban Safety and Security
Kobe University

神戸大学都市安全研究センター活動報告（令和2年度）

Activities of Research Center for Urban Safety and Security Kobe University (Fiscal Year 2020)

第 25 号

目 次

| | |
|---|----|
| 1. 都市安全研究センター設置の趣旨及び沿革 | 1 |
| 1.1 設立の趣旨 | 1 |
| 1.2 沿革 | 2 |
| 2. 活動内容、教員構成及び組織図 | 3 |
| 3. 活動プロジェクト | 6 |
| 4. 都市安全研究センターの運営 | 8 |
| 4.1 運営委員会 | 8 |
| 4.2 プロジェクト推進・評価 | 9 |
| 5. 協力教員による活動 | 10 |
| 5.1 協力教員構成 | 10 |
| 5.2 東北大学等との連携による震災復興、並びに災害科学分野における学術研究の支援経費公募 | 12 |
| 6. 主な設備及び備品 | 13 |
| 7. 野外調査・観測地及び緊急調査の実施 | 14 |
| 7.1 野外調査・観測地 | 14 |
| 7.2 緊急調査の実施 | 14 |
| 8. 都市安全研究センター発行物 | 15 |
| 9. 会議開催等 | 16 |
| 9.1 主催 | 16 |
| 9.2 共催 | 22 |
| 9.3 中高生への説明会 | 23 |
| 9.4 その他 | 23 |
| 10. 非公開 | 24 |
| | 24 |
| | 26 |
| | 28 |
| | 28 |
| 11. 国際・国内交流活動 | 29 |
| 12. 非公開 | 29 |
| | 29 |
| | 29 |
| 13. 研究費 | 30 |

| | | | |
|------|----------------|-------|----|
| 13.1 | 科学研究費 | ----- | 30 |
| | 非公開 | ----- | 32 |
| | | ----- | 33 |
| | | ----- | 33 |
| | | ----- | 34 |
| 14. | 教育活動 | ----- | 35 |
| | 講義科目 | ----- | 35 |
| | 非公開 | ----- | 37 |
| | | ----- | 37 |
| 15. | 研究業績 | ----- | 38 |
| 15.1 | 研究現状の紹介（研究テーマ） | ----- | 38 |
| 15.2 | 著書 | ----- | 39 |
| 15.3 | 学術論文 | ----- | 40 |
| 15.4 | 学術報告 | ----- | 44 |
| 15.5 | 学術講演 | ----- | 46 |
| 16. | 研究指導 | ----- | 51 |
| 16.1 | 博士論文 | ----- | 51 |
| 16.2 | 修士論文 | ----- | 51 |
| 16.3 | 卒業研究 | ----- | 52 |
| 付録 | センター活動の報道記録 | | |

1. 都市安全研究センター設置の趣旨及び沿革

1.1 設立の趣旨

都市安全研究センターは、「安全かつ快適な都市の理念を構築し、及びそれを実現するための手法、システムについて総合的に教育研究を行い、もって活力ある都市の創出に寄与する」ことを目的に、平成8年5月11日に設置された。

都市は、活力ある生産・経済・文化活動の場として多様で豊富な機能を備え、また潤いある生活の場として快適で良好な環境であることが求められるが、何にもまして安全で安心な場であることが求められている。しかし都市は、つねに集中化や過密化を伴う巨大で複雑なシステムであり、同時に地震や洪水等の自然災害あるいは人間活動による環境破壊や汚染によって壊滅的な打撃を受けかねない繊細なシステムでもある。

平成7年1月17日の兵庫県南部地震によって、我々は、余りにも多くの尊い犠牲を払って、都市の脆弱性をあらためて認識し、都市の安全確保のために総合的な研究の展開と遂行が必要であることを痛感させられた。神戸大学は、被災地の総合大学として、貴重な体験を基礎に、真に安全・安心な都市の創出をめざして、都市ゆえに生じる多種多様な災害についてハード及びソフトの両面から学際的かつ総合的に研究するため、その中核として研究センターの設置を文部省に申請し、これが認められて当研究センターが設立された。なお、創設にあたって、工学部附属土地造成工学研究施設は発展的に拡充改組する形で廃止され、その研究成果と研究活動は当センターに継承されることとなった。

設立10周年を迎えた平成18年4月には、全面的な改組（3大研究分野体制：リスク・アセスメント、リスク・マネジメント、リスク・コミュニケーション）を行い、「防災」と「減災」の両面に立脚した、より積極的に住民の命を守ることを目的とした安心・安全な社会の構築を目指す仕組みや手法の研究を推進していくこととなった。

1.2 沿革

| | |
|------------|--|
| 平成8年5月11日 | 神戸大学都市安全研究センター 新設 都市構成研究分野（教授1名，助教授1名） 都市基盤研究分野（教授2名，助教授2名，助手1名） 都市地震研究分野（教授1名，助教授1名） 都市安全医学研究分野（教授1名，助教授1名） 都市行政産業基盤研究分野（客員教授2名） 工学部長 片岡 邦夫 教授 センター長に就任 |
| 平成9年4月1日 | 都市情報システム研究分野（教授1名，助教授1名，助手1名）増設 |
| 平成10年4月1日 | 工学部長 北村新三 教授 第2代センター長に就任 |
| 平成10年4月9日 | 都市安全マネジメント研究分野（教授1名，助教授1名）増設 |
| 平成12年4月1日 | 工学部長 森脇俊道 教授 第3代センター長に就任 |
| 平成16年4月1日 | 工学部長 薄井洋基 教授 第4代センター長に就任 |
| 平成18年4月1日 | 3大研究分野へ改組（教員16名，客員2名） リスク・アセスメント大研究分野 リスク・マネジメント大研究分野 DMAT・災害支援特別部門（助教授1名 3年時限） リスク・コミュニケーション大研究分野 |
| 平成19年2月16日 | 工学部長 森本政之 教授 第5代センター長に就任 |
| 平成19年4月1日 | 沖村孝 教授 第6代センター長に就任 |
| 平成20年4月1日 | 有木康雄 教授 第7代センター長に就任 |
| 平成22年4月1日 | 田中泰雄 教授 第8代センター長に就任 |
| 平成24年4月1日 | 飯塚 敦 教授 第9代センター長に就任 |
| 平成26年4月1日 | 北後明彦 教授 第10代センター長に就任 |
| 平成28年4月1日 | 大石 哲 教授 第11代センター長に就任 |
| 平成30年4月1日 | 長尾 毅 教授 第12代センター長に就任 |
| 令和2年4月1日 | 吉岡祥一 教授 第13代センター長に就任 |

2. 活動内容，教員構成及び組織図

リスク・アセスメント研究分野

地震，津波，豪雨などの自然災害及び環境破壊，事故，火災などの人為災害に対する都市機能，生活環境の靱性能の定量的評価と防災・減災を目的にした施策を学際的に研究する．地震メカニズムの解明，都市環境に対する災害リスクの同定と定量化，防災・減災を主眼とした安全環境整備への方策を追究し，安全・安心で環境負荷の少ない都市の創生・再生へ向けてのシナリオ・マップの策定を目指す．

地震災害リスク評価研究分野

教授 吉岡祥一
准教授 廣瀬 仁
特命助教 末永伸明

地盤環境リスク評価研究分野

教授 飯塚 敦
特命准教授 銭谷誠司
准教授 橘 伸也（令和3年1月～）

リスク・マネジメント研究分野

都市災害が発生した時，社会が災害から受ける影響を最小とするための方策について研究する．具体的には，都市施設，医療・生活，行政・経済面の災害発生時における緊急対応の方法，被災社会の復旧・復興過程における短気・中長期の視野に基づく各項目で取りうる最善な方策及び災害発生時の影響を最小にするために，都市施設，医療・生活，行政・経済の各システムについて事前に整備しておくべき方策などについて研究する．

社会基盤マネジメント研究分野

教授 長尾 毅

減災エリアマネジメント研究分野

教授 北後明彦
准教授 藤永 隆

産業・経済危機管理マネジメント研究分野

外国人研究員

客員准教授 Tan Kok Weng（令和2年12月～令和3年2月）

客員研究員

客員教授 金治英貞（平成29年度前期～）
客員教授 高田 哲（令和2年4月～令和2年9月）
客員准教授 伊藤喜宏（令和2年10月～令和3年3月）
吉田龍二（平成30年10月～）

リスク・コミュニケーション研究分野

都市域における防災・減災を達成するため、リスク・コミュニケーションによる人々のリスク認識の向上や意志決定のサポートなどの手法について研究する。具体的には、住民や各機関との双方向の情報通信手段や防災教育に関する研究ならびに先端技術を応用した災害情報共有のための災害情報モニタリング、災害情報収集システムに関する研究を行う。

情報コミュニケーション研究分野

教授 滝口哲也
准教授 高島遼一

安全コミュニケーション研究分野

教授 大石 哲
特命教授 梶川義幸
准教授 小林健一郎
特命助教 山浦 剛

感染症リスクコミュニケーション研究分野

教授 岩田健太郎
准教授 大路 剛

協力研究部門

災害緊急医療学研究分野

教授 小谷穰治
准教授 山田 勇

災害健康保健学研究分野

教授 和泉比佐子
准教授 小寺さやか

災害時のこころのケア研究分野

教授 曾良一郎（令和2年7月～）

減災人間学研究分野

教授 松岡広路

減災社会システム研究分野

教授 金子由芳

災害経済学研究分野

教授 萩原泰治（令和2年7月～）

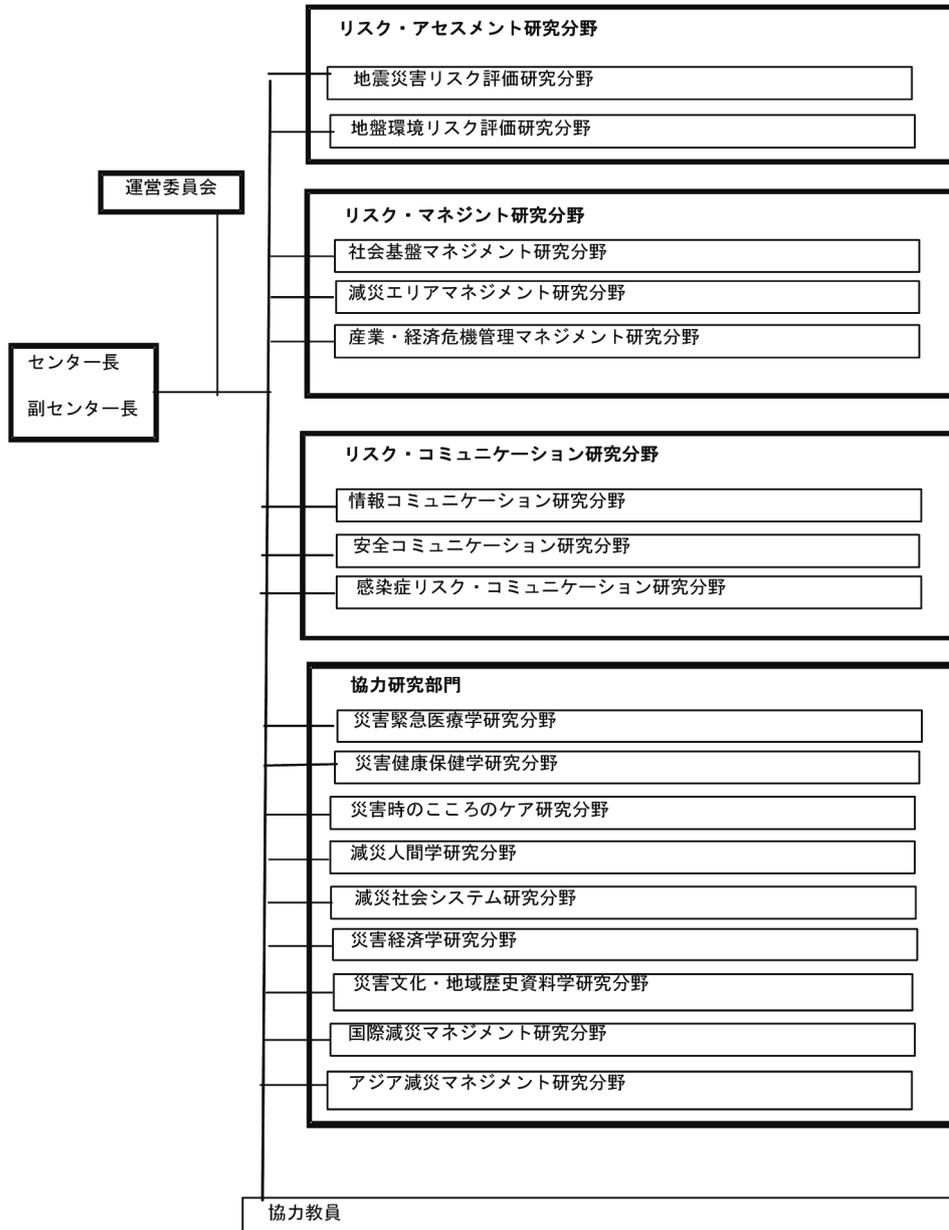
減災社会システム研究分野

教授 奥村 弘（令和2年7月～）

国際減災マネジメント研究分野

客員教授 佐藤 睦

アジア減災マネジメント研究分野
客員教授 鈴木弘二



都市安全研究センター組織図
(令和 3年 3月 31日 現在)

3. 活動プロジェクト

リスク・アセスメント研究分野

地震発生の場合と波動伝搬の解明に向けた研究

- 3次元熱対流プレート沈み込みモデルの構築
- 動的断層破壊モデルの構築
- GNSSデータを用いたプレート境界における固着・すべりの推定
- 津波の数値シミュレーション研究
- SSEと群発地震の連動メカニズムの解明
- 東北日本弧を対象とした観測された強震動データの特徴と震源特性・島弧の構造との関連性の研究

持続可能な減災社会インフラ構築のための地盤安全環境評価手法の確立

- 液状化などの地盤の動的挙動を表現できる数値シミュレータの高度化
- 地盤物性の空間分布の把握と推定に基づく広域地盤モデル作成
- 深海底地盤のインフラとしての活用を見据えた力学特性の把握
- プレート境界デコルマ帯における粘土鉱物の変質に伴う力学特性変化の定量化とスロースリップ現象の説明
- 放射性廃棄物地層処分におけるベントナイト緩衝材の長期安定性評価のための数理モデルの開発
- 宇宙プラズマ中の磁気リコネクションのシミュレーション研究
- ディープラーニングを使った図面からの情報抽出技術

リスク・マネジメント研究分野

- 社会基盤施設の耐震設計法の合理化に関する研究
- 社会基盤施設の設計地震動の合理化に関する研究
- サイト増幅特性の評価法の開発
- 社会基盤施設の耐震性能照査法の合理化に関する研究

減災エリア・マネジメントによる安全安心コミュニティ構築に関する研究

- 津波浸水地域及び木造密集地域における減災エリアマネジメントに関する研究
- 人口集中都心における減災エリアマネジメントに関する研究
- 復興段階の被災地における減災エリアマネジメントに関する研究
- アジアを中心とする発展途上国における減災エリアマネジメントに関する研究

リスク・コミュニケーション研究分野

- 健常者・障がい者に対するユニバーサルな災害情報収集及び提供システムの研究
- 情報検索/音声質問検索に関する研究
- コンピュータビジョンに関する研究

予測の不確実性を含んだ水災害軽減に関する基礎および実践的研究

- スーパーコンピュータ「富岳」を利用した洪水モデリング
- 豪雨災害の探知・予測システムの検討に関する研究
- 気候システムに関する研究
- 市民へのリスク・コミュニケーションに関する研究

新型インフルエンザなど新興・再興感染症対策に関する研究

新興・再興感染症・新型インフルエンザに関する研究

耐性菌感染症に関する研究

感染症多施設臨床研究プロジェクト

4. 都市安全研究センターの運営

4.1 運営委員会

4.1.1 運営委員会構成

(令和2年4月1日現在)

| | | | |
|--------|------|-------|--------------|
| センター長 | 教授 | 吉岡 祥一 | (都市安全研究センター) |
| 副センター長 | 教授 | 滝口 哲也 | (都市安全研究センター) |
| | 教授 | 飯塚 敦 | (都市安全研究センター) |
| | 教授 | 岩田健太郎 | (都市安全研究センター) |
| | 教授 | 大石 哲 | (都市安全研究センター) |
| | 教授 | 北後 明彦 | (都市安全研究センター) |
| | 教授 | 長尾 毅 | (都市安全研究センター) |
| | 教授 | 島 伸和 | (理学研究科) |
| | 教授 | 上野 易弘 | (医学研究科) |
| | 教授 | 藤谷 秀雄 | (工学研究科) |
| | 教授 | 羅 志偉 | (システム情報学研究科) |
| | 教授 | 松岡 広路 | (人間発達環境学研究科) |
| | 教授 | 和泉比佐子 | (保健学研究科) |
| | 教授 | 金子 由芳 | (国際協力研究科) |
| | 客員教授 | 鈴木 弘二 | (都市安全研究センター) |
| | 客員教授 | 佐藤 睦 | (都市安全研究センター) |

(以上 16名)

4.1.2 運営委員会開催状況

令和2年度第1回運営委員会

- 1) 日時：令和2年7月29日(水)
- 2) 場所：工学研究科中会議室(工学研究科2W棟2階2W-207)
- 3) 議事次第
報告事項
(1) 教員等の異動について
(2) 都市安全研究センターの活動報告と計画について

審議事項
(1) 令和元年度決算及び令和2年度予算配分(案)について
(2) 客員研究員の採用について

令和2年度第2回運営委員会

- 1) 日 時：令和3年1月25日（月）
- 2) 実施方法：オンライン会議（ZOOM）
- 3) 議事次第
報告事項
（1）教員等の異動について
（2）都市安全研究センターの活動報告と計画について

審議事項
（1）副センター長候補者の選考について
（2）客員研究員の採用について
（3）外国人研究員の採用について

4.2 プロジェクト推進・評価

4.2.1 プロジェクト推進・評価委員会構成

山平 晃嗣氏：神戸市危機管理監
早金 孝氏：兵庫県防災監
長沼 隆之氏：神戸新聞社論説副委員長
小堀 一幸氏：（一財）アジア防災センター 管理部長
佐古井智之氏：国際復興支援プラットフォーム 主任研究員
中山 伸一氏：兵庫県災害医療センター センター長
平原 和朗氏：京都大学名誉教授 理化学研究所革新知能統合研究センター 嘱託職員
池淵 周一氏：京都大学名誉教授 （公財）河川財団近畿事務所 研究フェロー
太田 秀樹氏：東京工業大学名誉教授 中央大学研究機構 教授
上田 敬博氏：鳥取大学医学部附属病院救命救急センター 教授

4.2.2 プロジェクト推進・評価委員会開催状況

- 1) 日時：令和3年3月29日（月） 13：00～16：00
- 2) 開催方式：オンライン開催
- 3) 次第
（1）開会挨拶（吉岡センター長）
（2）委員自己紹介
（3）座長選出
（4）センター活動・研究内容の概要説明（吉岡センター長）
（5）プロジェクト研究報告と研究計画
（各プロジェクトへの質疑応答を含む）
（6）未来世紀都市学研究ユニット説明
（7）未来世紀都市学研究ユニットに関する質疑応答
（8）閉会挨拶（滝口副センター長）

5. 協力教員による活動

5.1 協力教員構成

(令和2年6月1日現在)

| | | |
|-----------------|-------|-------------|
| 理事 (1名) | 水谷 文俊 | |
| 人文学研究科 (2名) | | |
| 教授 | 藤田 裕嗣 | (文化構造専攻) |
| 教授 | 市澤 哲 | (社会動態専攻) |
| 国際文化学研究科 (7名) | | |
| 教授 | 大月 一弘 | (グローバル文化専攻) |
| 教授 | 藤野 一夫 | (グローバル文化専攻) |
| 教授 | 王 柯 | (文化関連専攻) |
| 教授 | 坂本 千代 | (文化関連専攻) |
| 教授 | 塚原 東吾 | (文化関連専攻) |
| 准教授 | 井上 弘貴 | (文化関連専攻) |
| 准教授 | 安岡 正晴 | (文化関連専攻) |
| 人間発達環境学研究科 (5名) | | |
| 准教授 | 齊藤 誠一 | (人間発達専攻) |
| 教授 | 浅野 慎一 | (人間環境学専攻) |
| 教授 | 平山 洋介 | (人間環境学専攻) |
| 教授 | 澤 宗則 | (人間環境学専攻) |
| 教授 | 太田 和宏 | (人間環境学専攻) |
| 経済学研究科 (1名) | | |
| 教授 | 玉岡 雅之 | (経済学専攻) |
| 理学研究科 (1名) | | |
| 助教 | 笥 楽磨 | (地球惑星科学専攻) |
| 医学研究科 (1名) | | |
| 教授 | 上野 易弘 | (医科学専攻) |
| 保健学研究科 (1名) | | |
| 教授 | 中澤 港 | (保健学専攻) |
| 工学研究科 (27名) | | |
| 教授 | 阪上 公博 | (建築学専攻) |
| 教授 | 孫 玉平 | (建築学専攻) |
| 教授 | 多賀 謙蔵 | (建築学専攻) |
| 教授 | 田中 剛 | (建築学専攻) |
| 教授 | 谷 明勲 | (建築学専攻) |
| 教授 | 藤谷 秀雄 | (建築学専攻) |
| 准教授 | 大谷 恭弘 | (建築学専攻) |
| 准教授 | 栗山 尚子 | (建築学専攻) |
| 准教授 | 近藤 民代 | (建築学専攻) |
| 准教授 | 佐藤 逸人 | (建築学専攻) |

| | | | |
|-----|----|----|------------|
| 准教授 | 竹林 | 英樹 | (建築学専攻) |
| 准教授 | 中江 | 研 | (建築学専攻) |
| 准教授 | 向井 | 洋一 | (建築学専攻) |
| 助教 | 竹内 | 崇 | (建築学専攻) |
| 教授 | 芥川 | 真一 | (市民工学専攻) |
| 教授 | 小池 | 淳司 | (市民工学専攻) |
| 教授 | 澁谷 | 啓 | (市民工学専攻) |
| 教授 | 中山 | 恵介 | (市民工学専攻) |
| 教授 | 森川 | 英典 | (市民工学専攻) |
| 准教授 | 加藤 | 正司 | (市民工学専攻) |
| 准教授 | 鋤田 | 泰子 | (市民工学専攻) |
| 助教 | 齋藤 | 雅彦 | (市民工学専攻) |
| 教授 | 竹野 | 裕正 | (電気電子工学専攻) |
| 教授 | 塚本 | 昌彦 | (電気電子工学専攻) |
| 助教 | 米森 | 秀登 | (電気電子工学専攻) |
| 教授 | 阪上 | 隆英 | (機械工学専攻) |
| 准教授 | 細川 | 茂雄 | (機械工学専攻) |
| 教授 | 大村 | 直人 | (応用化学専攻) |

システム情報学研究科 (1名)

| | | | |
|------|----|----|----------|
| 特命教授 | 吉本 | 雅彦 | (情報科学専攻) |
|------|----|----|----------|

海事科学研究科 (2名)

| | | | |
|-----|----|----|----------|
| 教授 | 竹林 | 幹雄 | (海事科学専攻) |
| 准教授 | 岡田 | 順子 | (海事科学専攻) |

農学研究科 (6名)

| | | | |
|-----|-----|----|---------------|
| 教授 | 金子 | 治平 | (食料共生システム学専攻) |
| 教授 | 河端 | 俊典 | (食料共生システム学専攻) |
| 教授 | 田中丸 | 治哉 | (食料共生システム学専攻) |
| 准教授 | 井上 | 一哉 | (食料共生システム学専攻) |
| 准教授 | 多田 | 明夫 | (食料共生システム学専攻) |
| 准教授 | 澤田 | 豊 | (食料共生システム学専攻) |

国際協力研究科 (2名)

| | | | |
|----|---------------------------------|----|------------|
| 教授 | ALEXANDER RONNI BARR (国際協力政策専攻) | | |
| 教授 | 小川 | 啓一 | (地域協力政策専攻) |

国際連携推進機構国際教育総合センター (3名)

| | | | |
|-----|----------------------|----|--|
| 教授 | 朴 | 鍾祐 | |
| 准教授 | HARRISON RICHARD JOH | | |
| 准教授 | 黒田 | 千晴 | |

男女共同参画推進室 (2名)

| | | | |
|----------|----|----|--|
| コーディネーター | 内田 | 一徳 | |
| 政策研究職員 | 中原 | 朝子 | |

科学技術イノベーション研究科 (1名)

| | | | |
|----|----|---|-----------------|
| 教授 | 太田 | 能 | (科学技術イノベーション専攻) |
|----|----|---|-----------------|

先端融合研究環（1名）

教授 松田 毅

（以上64名）

5.2 東北大学等との連携による震災復興、並びに災害科学分野における学術研究の支援経費公募

採択課題（11件）

アレキサンダー ロニー

震災後の復興及び地域コミュニティの再構築において安全安心を基にした創造型コミュニケーション・スキルの開発

寛 楽磨

島弧特有の構造がもたらす地震のゆれの特異な分布：東北日本と北海道を対象として

齊藤 誠一

東日本大震災の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究
—放射線被爆不安と新型コロナウイルス感染不安との複合的影響の検討—

曾良 一郎

災害派遣精神医療チーム DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）の災害支援のあり方

小澤 卓也

災害時の一次避難所における「福祉避難スペース」設置に関する自治体の取り組みについて ～宮城県亘理郡山元町の事例を中心に～

梅屋 潔

民俗芸能を通じたコミュニティの境界と交流—その記録と比較

林 美鶴

津波による海底堆積物擾乱がもたらす海水環境影響の定量化（マリンハザード研究）

奥村 弘

災害資料の保存・活用の実践的研究—阪神大震災の知見を基礎として—

藤田 裕嗣

焦点を地域共同体に置いた東日本大震災の復興支援に向けた経験を台湾にも生かす試み

川畑康治

自然災害と労働市場、産業構造に関する実証分析

栗山尚子

巨大地震津波リスクに対する事前空間復興計画の評価に関する日米比較研究

6. 主な設備及び備品

リスク・アセスメント研究部門

- ・ 反射法地震波探査装置 (DAS-1) (Oyo Geospace Data Logger)
- ・ 地震観測装置 3式
- ・ 模型土槽
- ・ 三軸試験装置 (静的、繰返し試験用) 2式
- ・ 高圧圧密試験機 (二連型) (MARUI)
- ・ 万能圧縮試験機 (MARUI)
- ・ スマート三軸試験機 1台 (応用地質株)

リスク・マネジメント研究部門

- ・ 赤外線サーモグラフィ TVS-700 1台
- ・ 微動センサー 2台
- ・ 強震・微動計 6式
- ・ 三軸試験装置 2式
- ・ 繰返しねじりせん断試験機 (アスファルト供試体用)
- ・ 小型FWD (FWD-Light) 試験機 (共同利用可能)
- ・ アルミ棒積層体模型載荷試験装置 (共同利用可能)
- ・ 大型盛土実験スペース {4m (長) x 2m (幅) x 3m (高)} (共同利用可能)

リスク・コミュニケーション研究部門

- ・ 電子セオドライト (SOKKIADT4F)
- ・ ノンプリズム光波距離計 (MM100)
- ・ GNSS 大気遅延量計測装置 (Trimble NetR9) 2台

各部門共通

- ・ トヨタハイエース (CBF-TRH200V) 1台

7. 野外調査・観測地及び緊急調査の実施

7.1 野外調査・観測地

リスク・アセスメント研究部門

- ・豊後水道周辺GPS観測

リスク・マネジメント研究部門

- ・東日本大震災後の復興調査
- ・2018年西日本豪雨の避難及び復興調査

リスク・コミュニケーション研究部門

- ・大阪湾周辺：Xバンドおよびミリ波レーダー，境界層レーダー，GPS水蒸気探知
- ・勝浦市周辺：Xバンドレーダー，雨滴計，間隙水圧計，土壌水分計

7.2 緊急調査の実施

なし

8. 都市安全研究センター発行物

- ・神戸大学都市安全研究センター第1回震災復興・災害科学シンポジウム 東日本大震災から10年～わかってきたこと、今伝えたいこと～実施報告書（令和3年3月）
- ・都市安全研究センター研究報告第25号(令和3年3月)
- ・都市安全研究センター活動報告第25号(令和3年3月)

9. 会議開催等

9.1 主催

神戸大学都市安全研究センター第1回震災復興・災害科学シンポジウム
東日本大震災から10年～わかってきたこと、今伝えたいこと～

日時： 令和3年 1月9日（土）13：00 ～ 17：00

会場： オンライン開催

プログラム

13:00 - 13:05 開会挨拶 吉岡 祥一 (神戸大学都市安全研究センター センター長)

発表 (発表 12 分、質疑 3 分)

13:05 - 13:20 被災地コミュニティのコンビビアリティを活性化する方法と課題
松岡 広路 (神戸大学都市安全研究センター 協力研究部門 教授)

13:20 - 13:35 避難所における差し入れと消化器症状：炭水化物過多への不満と食事の希望
小谷 穰治 (神戸大学都市安全研究センター 協力研究部門 教授)

13:35 - 13:50 東北地方太平洋沖地震後の余効すべりと固着の分布 ～温度に依存する粘性構造モデルを用いて～
吉岡 祥一 (神戸大学都市安全研究センター リスク・アセスメント研究部門 教授)

13:50 - 14:00 休憩

公募研究発表 (発表 8 分、質疑 2 分)

14:00 - 14:10 「安全安心」を描く～創造型コミュニケーションの成果をふりかえる
アレキサンダー ロニー (神戸大学国際協力研究科 教授)

14:10 - 14:20 宮城県沖で発生する3種類の地震による東北と北海道での揺れ
箕 楽麿 (神戸大学理学研究科 惑星学専攻 助教)

14:20 - 14:30 福島における目に見えない相手との関わり —放射線と新型コロナウイルス—
齊藤 誠一 (神戸大学人間発達環境学研究科 准教授)

14:30 - 14:40 精神医療チームによる災害時のこころのケア
曾良 一郎 (神戸大学医学研究科 教授)

14:40 - 14:50 震災で傷ついた民俗芸能とコミュニティのかたち
梅屋 潔 (神戸大学国際文化研究科 教授)

14:50 - 15:00 津波マリンハザード研究の総括 ～南海トラフ地震による津波と海洋環境～
林 美鶴 (神戸大学内海域環境教育研究センター 准教授)

15:00 - 15:10 災害資料の保存・活用の実践的研究 —阪神大震災の知見を基礎として—
奥村 弘 (神戸大学人文学研究科 教授)

15:10 - 15:20 東日本大震災の復興支援における経験を台湾でも生かすためのキーワードを
巡って —地域共同体を焦点とした試み—
藤田 裕嗣 (神戸大学人文学研究科 教授)

15:20 - 15:30 自然災害と産業構造変化：東日本大震災の経験から
川畑 康治 (神戸大学国際協力研究科 准教授)

15:30 - 15:40 巨大地震津波リスクに対する復興計画の策定に関する日米比較研究
栗山 尚子 (神戸大学工学研究科 建築学専攻 准教授)

15:40 - 15:50 休憩

発表 (発表 12 分、質疑 3 分)

15:50 - 16:05 一次避難所における被災者の健康管理と非医療従事者の役割 ～宮城県石巻市の医療関係者に訊く
小澤 卓也 (神戸大学国際文化研究科 教授)

特別講演

16:05 - 16:55 東日本大震災の教訓と津波研究の歩み
越村 俊一 (東北大学 災害科学国際研究所 教授 (所長補佐))

16:55 - 17:00 閉会挨拶 滝口 哲也 (神戸大学都市安全研究センター 副センター長)

オープンゼミナール

<第256回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2020年5月16日(土) 14時～17時

視聴：ライブ動画配信 (講師、司会がそれぞれ別の場所からテレ・ゼミナールに出演)

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 飯塚 敦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、未来世紀都市学研究ユニット

後援：兵庫県

① デジタルトランスフォーメーションに向けての道路インフラの取り組み

金治 英貞 阪神高速道路株

デジタルを活用して、これまでの仕事のやり方を大きく変革することが道路インフラにも求められている。これまで阪神高速では劣化する構造物の点検を丁寧に行ってきたり、そのデータの蓄積が安全、安心を確保するために重要と考え資産データとともに日々の業務に活用している。そして現在そのデータの3次元化や関連化(紐づけ)に取り組み始めた。さらにSociety5.0を見据え、それらを活用した種々のシミュレーションを行い、膨大な資産の日常、災害時の機能最適化に向けた技術的判断、そして技術経営に活かしていきたいと考えている。ここではこれらの取り組みについて紹介した。

② 放射性廃棄物の地層処分

橘 伸也 神戸大学都市安全研究センター講師

生活に不可欠な電力を賄うために、原子力を利用してきた、あるいは、今後も依存する国々は、発生する放射性廃棄物をどう処分するかという問題に対峙します。わが国とて例外でなく、処分すべき廃棄物が蓄積している状況にあり、国民全体がバックエンド(後片付け)問題を真剣に考える時期に差し掛かっている。多くの国では、放射性廃棄物を人間の生活圏から長期にわたって隔離するための術として、地層処分が検討されている。日本も、固有の政策に沿いつつも、関連する機関・企業が地層処分の実現に向けた技術・研究開発を進めている。一方で、この施設を国内のどこに建設するかという選定プロセスにおいては、次世代に負担を残さないという認識を共有しつつも、社会的な合意を形成することの難しさに直面しているのが現状である。本講演では、地層処分の実現に向けて取り組まれている技術的・社会的課題を紹介した。

参加者：46人(北後)

<第257回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2020年6月13日(土) 14時～17時

視聴：(講師、司会がそれぞれ別の場所からテレ・ゼミナールに出演)

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、未来世紀都市学研究ユニット

① 模型復元ワークショップによる復興支援活動と防災・減災活用に向けて

梶橋 修 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授

磯村和樹（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター 主任研究員

東日本大震災の復興支援としてはじめて「失われた街」模型復元プロジェクト。9年間にわたる取り組みを振り返り、その広がり可能性について話があった。また復元模型ワークショップを活用した南あわじ市福良地区での事前復興の取り組みを紹介しながら、この方法の防災・減災活用について考えた。

② 津波襲来時における保育施設の避難対応と課題～東日本大震災での経験から考える

ピニエイロ アベウ 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 研究員

保育施設では、目的地に向けた自律的な歩行が困難な乳幼児を預かっている施設であるため、津波襲来など大規模災害時における市街地での広域的な避難対応が困難である。本研究では、気仙沼市及び釜石市の沿岸部地域における保育施設を対象とし、東日本大震災に伴う津波からの避難対応について事例調査を行った。避難計画の効果、歩行が可能な園児の誘導状況、多人数用ベビーカーを用いた乳児等の搬送状況、地域コミュニティによる支援過程や津波火災など二次災害から安全な場所に避難先が確保された経緯などに焦点を当て、今後の防災対策を検討する上で重要な課題について考えた。

参加者：54人（北後）

<第258回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2020年7月11日（土）14時～17時

視聴：ライブ動画配信（講師、司会がそれぞれ別の場所からテレ・ゼミナールに出演）

司会：株式会社ニュージェック、前神戸大学客員教授 平井俊之（前半）

神戸大学都市安全研究センター 教授 長尾 毅（後半）

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、未来世紀都市学研究ユニット

① 最近の被害地震について～現地調査結果を中心に～

長尾 毅 神戸大学都市安全研究センター教授

最近発生した巨大地震の中から、2016年熊本地震（最大震度7）、2016年鳥取県中部地震（最大震度6弱）、2018年北海道胆振東部地震（最大震度7）について、現地調査結果などを中心に紹介した。最大震度6弱であったマグニチュード6.6の鳥取県中部地震と、最大震度7であったマグニチュード6.5（本震は7.3）の熊本地震、マグニチュード6.7の北海道胆振東部地震の、震度の違いと被害の違い、震度を分けた要因などについて考えた。

② 強震動シミュレーションの現状と動的応答解析を用いた耐震設計

平井俊之 株式会社ニュージェック、前神戸大客員教授

構造物の耐震設計においては、どのような地震動が構造物に作用しどのように構造物が応答するのかが重要である。現在の強震動シミュレーション手法で、兵庫県南部地震の観測記録をどの程度再現できるかについて示した。また、動的応答解析手法により時々刻々構造物が被災していく状況を追跡することができる。これらの手法は設計の実務で用いられており、港湾構造物を例として、どのように耐震設計が行われているかを紹介した。

参加者：48人（北後）

<第259回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2020年8月22日（土）14時～17時

視聴：ライブ動画配信

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、未来世紀都市学研究ユニット

① 水害リスクを考慮した土地利用マネジメント

－フランス、滋賀県の事例から－

馬場 美智子 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科教授

水害リスクの高まりや人口減少社会の到来により、水害の危険度が高い土地の利用や建築に関して規制・誘導を行うことへの関心が高まってきている。水害リスクを考慮した土地利用マネジメントの方策は、都市計画手法にとどまらず、建築条件付与、保険制度、不動産取引時のリスク情報開示等の他の制度や社会システムも組み合わせた取り組みである。このような取り組みが行われているフランスや滋賀県の事例を話した。

② 米国の巨大水害と住宅復興

－ハリケーン・カトリーナ後の政策と実践－

近藤 民代 神戸大学大学院工学研究科 建築学専攻准教授

日本と大きく異なる米国の災害復興。ハリケーン・カトリーナ災害の被災地における市場を介した住宅ストックの再生、ボランティアによる住宅修繕支援、地域住民主導の居住環境再生など、民間活力を活かした復興アクションについて解説した。東日本大震災を前提にしない南海トラフ地震に向けた復興計画・政策のあり方について考えた。

詳細は <http://www.nikkeihyo.co.jp/books/view/2559>に示されている。

参加者：68人（北後）

<第260回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2020年9月19日（土）14時～17時

視聴：ライブ動画配信

司会：神戸大学都市安全研究センター教授 滝口 哲也

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究ユニット

① 在宅医療の進歩とその課題

高田 哲 神戸市総合療育センター診療所長・神戸大学名誉教授

在宅医療の進歩に伴い、これまでは長期にわたり入院を余儀なくされていた人々が自宅で家族と生活することが可能となってきた。最近では、経管栄養や口腔内・気管内吸引だけではなく、在宅人工呼吸器や、在宅酸素療法に支えられて、重い障害を持つ人々や高齢者が地域コミュニティで暮らすようになってきている。一方で、災害時において、これらの人々に対する避難行動支援は極めて大きな課題となっている。残念なことに多くの市民は、なぜそのような特別なケアが必要になるのか、日常の生活において誰がどのようにこれらのケアを担っているのかについて十分な情報を持っていない。今回のRCUSSオープンゼミナールの前半部では、食べることと呼吸機能に焦点をおいて、医療的なケアがなぜ必要とされるのかについて説明した。また、これらの人々が新型コロナウイルスなどの呼吸器感染に対して極めて弱い存在であることを示した。さらに、小児科専門医の立場から、重篤な障害は持たないが、社会的なコミュニケーションや認知面においてハンディをもつ人々が災害時に直面する課題についても提言した。

② 災害時における支援（医療専門家としての提言）

木村 重美 兵庫県立リハビリテーション中央病院子どものリハビリテーション

睡眠と発達医療センター副センター長

神戸大学大学院医学研究科医学研究員

ゼミナールの前半部において示されたように、在宅医療は、電気をはじめとしたライフラインの安定的な供給、安全に介助してくれる家族・支援者の存在を前提に築かれている。いったん大規模な災害が生じ、電気などのライフラインが停止すると、在宅人工呼吸器、在宅酸素療法を必要とする人々は、生命の危機と直面する。これらの人々の避難行動をいかに支援するかは極めて難しくかつ重要な課題である。一方で、小児科医療と成人医療とは対象とする疾患に大きな違いがある。災害時に都道府県に設置される保健医療調整本部では、子どもの専門家と成人の専門家が一緒になって避難計画や医療的対応を考えるようになってきている。最近では、「災害時小児周産期リエゾン」という小児科のチームがDMAT（災害派遣医療チーム）、DPAT（災害時派遣精神医療チーム）と協力して対応を考えるようになってきている。さらに、日本小児科学会と日本小児神経学会では「災害時小児呼吸器地域ネットワ

ーク」の結成を呼び掛けている。ネットワークに参加している医療専門家に日常診療においても情報交換やカンファレンスを行うことを推奨している。今回の講演では、これらの仕組みを紹介するとともに、新型コロナ感染症下での支援・隔離体制についても考えた。

参加者：56人（北後）

<第261回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2020年10月24日（土）14時～17時

視聴：ライブ動画配信

司会：神戸大学都市安全研究センター教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学社会システムイノベーションセンター

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究ユニット

① コロナ禍における避難所に関する課題

高岡 誠子 人と防災未来センター 研究員

新型コロナウイルス感染症が蔓延している社会の中、避難所に避難することによる感染リスクを恐れて、避難が必要な方が避難所への避難を躊躇することが無いように、避難所での感染症対策が今求められている。しかし、過去の災害時に運営された避難所でも、感染症対策は行われていた。では、このコロナ禍における避難所の感染症対策は、これまでと何が違って来るのだろうか。対策を考える点において、これまでとの大きな違いは避難所を利用される方々の背景である。地域住民のなかには、新型コロナウイルス感染症に感染し自宅療養をされている方や濃厚接触者の方々がおられる。また、感染はしていても無症状のため無自覚な方もおられるということである。そのため、それぞれの方々に適切な対応ができるように、また避難所での感染やクラスター化を防ぐ対策が求められる。今回の講演では、コロナ禍における避難所において必要とされる対策を整理し、現在の自治体の取り組みを紹介しながら、対策に関する課題について考えてみた。

② コロナ禍における福祉施設での福祉避難所開設

木作 尚子 人と防災未来センター 主任研究員

自治体が福祉避難所の協定を締結している施設の多くは、高齢者施設や障害者施設など、要配慮者が生活・活動している施設である。しかし、コロナ禍においては、感染症によるリスクの高い施設利用者等への感染拡大が懸念されるため、災害時に要配慮者を受入れる空間がこれまで以上に確保できないことが想像される。一方で、近年は、重い障害を持つ人々や高齢者も地域コミュニティで暮らすようになってきており、福祉避難所の需要は高まっている。そのため、福祉避難所を開設する方法を事前に検討し、可能な限り要配慮者を受入れる方法を検討しておくことが重要である。今回の講演では、ゾーニングによる感染拡大防止について検討した内容を話した。ゼミナールの前半部において示された衛生管理等と合わせて、福祉施設における福祉避難所開設の方策を模索した。

参加者：73人（北後）

<第262回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2020年11月14日（土）14時～17時

視聴：ライブ動画配信

司会：神戸大学都市安全研究センター教授 大石 哲

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究ユニット

① 球磨川水害報告

森山聡之 福岡工業大学教授

令和2年7月豪雨における球磨川での洪水および土砂災害の調査を行った。洪水は主に人吉市と球磨村であり、従来浸からない位置にあると言われている青井阿蘇神社をはじめとする神社が被災していたことは未曾有の豪雨であったと考えられる。その青井さんが被災者への物資中継地点の役割を果たしていたことも注目に値する。また、111年間大きな被害を受け

なかったくま川鉄道が被災したこともまた重要である。洪水以外にも土砂災害で破壊されている場所も多く見られ、その一因としては、従来荒れることに少なかった広葉樹林の下草や低木がシカの食害の影響で斜面崩壊を起こしたという指摘もある。いずれにせよ、今後もハードウェアの限界を超える自然災害がいずれ起こることは確実であり、ソフト防災の重要性が再確認されたと考える。今後は気象予測（降雨予測）や、実測雨量からの流出予測だけでなく、上流側の水位から下流側の水位を予測する方法を導入し3段階の避難体制を考える必要があるだろう。

② 豪雨災害と降水システム

梶川義幸 神戸大学都市安全研究センター 特命教授

理化学研究所計算科学研究センター 上級研究員

西日本に大きな被害をもたらした平成30年7月豪雨において、総降水量が同程度であっても土砂災害件数には地域差があった。本発表では、この地域差が生じた主要因である降水システムの大きさに着目した解析結果を紹介すると共に、令和2年7月豪雨についても議論した。

参加者：67人（北後）

<第263回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2020年12月12日（土）14時～17時

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

視聴：ライブ動画配信

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究ユニット

【第1部】

① コロナウイルス対策をめぐる公法学からの評価と課題

山崎 栄一 関西大学社会安全学部教授

コロナウイルス対策をめぐる、緊急事態宣言、自粛要請という手法の妥当性、補償のあり方、感染者情報の収集とプライバシーといった論点が浮かび上がっている。これらの論点を、人権や法治国家という視点から見ると、どのように評価され、どのような課題が私たちに突講きつけられるのであろうか。社会システムを揺るがすイベントを読み解くための枠組みを提供した。

② コロナウイルスへの行政の対応と課題

永田 尚三 関西大学社会安全学部教授

新型コロナウイルスは、被害者を大勢出すのみならず、長期間にわたり社会活動を停止させ、私達の生活に大きな影響を与えた。政府や地方公共団体の対応に対する批判も、数多く聞かれる。今回の前例の無い事態に対するわが国行政機関の対応を、各国の行政の対応との比較で振り返り、どこに課題があるのか、またその課題が何故生じたのかを考えた。

<討論>

③ コロナウイルス対策をめぐる論点・課題についての討論

金子 由芳 神戸大学社会システムイノベーションセンター教授

【第2部】

④ 安全衛生の観点から見たCOVID-19対策について

大路 剛 神戸大学都市安全研究センター准教授

神戸大学医学部附属病院感染症治療内科准教授

COVID-19は2020年初頭から猛威を世界各地で猛威をふるってきている。しかし、次第に感染経路や予防策も分かってきており、それにもなつて対策も立てることが可能となつてきている。そもそも病原微生物への対策は有毒物質を扱う作業場における安全衛生対策から発展している。いま一度基本に立ち戻つて、どのような対策が有効かをCOVID-19の病像を含めて解説した。

参加者：70人（北後）

<第264回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年2月20日（土）14時～17時・

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

視聴：ライブ動画配信

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究ユニット

① 防災と福祉との連携による地域における「声がけ」体制の構築

ー令和元年東日本台風における「新・地域見守り安心ネットワーク」の事例より

阪本 真由美 兵庫県立大学減災復興政策研究科教授

令和元年東日本台風後に長野県須坂市ともに実施した市民の防災意識・避難行動の調査では、千曲川沿いの地域の避難率が高いことが示された。その要因としては、災害時の声がけ体制が構築されていたことがあげられる。須坂市では、平成17年より防災と福祉との連携による「新地域見守り安心ネットワーク」の取り組みが行われている（全町で策定済）。これは、平時は独居高齢・障害のある人等への見回りを行うとともに、災害時には自力で避難することが難しい人への声かけ避難を地域ぐるみで支援する仕組みである。このような、防災と福祉の連携による避難行動要支援者への支援体制を地域でどのように構築するのか須坂市の事例から検討した。

② 高齢者施設における洪水時の「避難開始の判断」の重要性

金井 純子 徳島大学大学院社会産業理工学研究部社会基盤デザイン系防災科学分野助教

過去の水害で入所者を迅速に避難させた3つの高齢者施設の共通点として、市町村が発令する避難情報等に加えて、施設近くの水位情報やダムの変流量など独自の避難行動開始基準を持つことが分かった。これらの事例を踏まえて、高齢者施設における洪水時の「避難開始の判断」の重要性について話をした。

参加者：83人（北後）

<第265回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年3月20日（土）14時～17時

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

視聴：ライブ動画配信

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究ユニット

① 新型コロナウイルス感染について

岩田 健太郎 神戸大学都市安全研究センター感染症リスクコミュニケーション分野教授

神戸大学医学研究科微生物感染症学講座感染治療学分野教授

新型コロナウイルス感染症は世界的パンデミックを起し、すべての人の関心事になっています。が、その正体についてはなかなかうまく理解されていません。これを理解するのがゼミナールの目標として開催した。

参加者：94人（北後）

9.2 共催

なし

9.3 中高生への説明会

広島大学附属高校スーパーサイエンスハイスクール サイエンスツアー研修

日時：令和2年年9月18日（金）

場所：オンライン講義・・・広島大学附属高校（情報館3階，第1研修室，大会議室）

全体講演

講師：大石 哲

「スーパーコンピュータ京や富岳によるシミュレーションについて」

個別講演

A班：岩田 健太郎

内容：「感染症に関するワークショップ」

B班：長尾 毅

内容：「地震の揺れについて考えてみよう」

C班：滝口哲也先生

内容：「機械で声質を変える—聴き取りやすい声で，豊かな生活をかなえる」

参加者：40名（大石）

9.4 その他

なし

1 1. 国際・国内交流活動

研究集会「Uji Reconnection Workshop 2020」

令和2年11月5日、オンライン

概要：宇宙空間のプラズマ環境で磁力線がつなぎ変わる「磁気リコネクション」過程について議論する国際研究会を開催した。世界4カ国から50名の研究者が参加し、活発な研究発表および討論を行った。

主催者：銭谷誠司ほか

研究集会「STEシミュレーション研究会・KDKシンポジウム合同研究会 2020」

令和3年3月29-31日、オンライン

概要：地球電磁気・地球惑星圏学会の太陽地球惑星系科学シミュレーション分科会の定例研究会、名古屋大学宇宙地球環境研究所のスパコン共同利用の成果報告会、京都大学生存圏研究所のスパコン共同利用の成果報告会、の3つを兼ねた合同研究会を開催した。「数値シミュレーション」を共通のキーワードとして、惑星科学・超高層物理学・宇宙空間プラズマ物理学・レーザー科学といった幅広い分野の研究者が集まり、活発な技術交流・情報交換を行った。3日間で32件の発表および延べ58名の参加があった。

主催者：銭谷誠司ほか

1 2. 海外出張及び海外研修

12.1 海外出張

12.2 海外研修

13. 研究費

13.1 科学研究費

研究題目：低速変形から高速すべりまでの地球科学的モデル構築

研究種目：新学術領域研究「スロー地震学」

研究者：吉岡祥一

代表／分担：分担

受入金額：2,750千円

研究題目：測地観測によるスロー地震の物理像の解明

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）「スロー地震学」計画研究

研究者：廣瀬仁

代表／分担：代表

受入金額：10,800千円

研究題目：スロー地震学

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）「スロー地震学」総括班

研究者：廣瀬仁

代表／分担：分担

受入金額：50千円

研究題目：高剛性基礎式栈橋の耐震設計法の開発に関する研究

研究種目：基盤研究(C)

研究者：長尾 毅

代表／分担：代表

受け入れ金額：780千円

研究題目：自然災害を起因とした火災のリスク評価に関する研究

研究種目：基盤研究(C)

研究者：北後明彦

代表／分担：代表

受け入れ金額：1,000千円

研究題目：アジア災害地域のコミュニティ参加型減災社会制度基盤の比較研究

研究種目：基盤研究(B)

研究者：北後明彦

代表／分担：分担

受け入れ金額：300千円

研究題目：首都直下地震等大規模災害のセーフティネットとしての準公営住宅の国際比較研究

研究種目：挑戦的研究・萌芽

研究者：北後明彦

代表／分担：分担

受け入れ金額：300千円

研究題目：CFT部材の新しい接合法とCFT構造の中低層建築物への展開

研究種目：基盤研究(C)

研究者：藤永隆

代表／分担：代表
受け入れ金額：1,690千円

研究題目：大振幅地震動対応アクティブ系振動制御構造と非線形ハイブリッドシミュレーション検証

研究種目：基盤研究(B)

研究者：藤永隆

代表／分担：分担

受け入れ金額：100千円

研究題目：ドリフト硬化型PCaRC造壁柱の開発と性能評価

研究種目：基盤研究(B)

研究者：藤永隆

代表／分担：分担

受け入れ金額：150千円

研究題目：構音障がい者の複数モダリティを用いたコミュニケーション支援技術の研究

研究種目：基盤研究 (B)

研究者：滝口哲也

代表／分担：代表

受入金額：3,380円

研究題目：言語脳神経活動の解析に基づく発話障がい者のコミュニケーション支援技術の基礎研究

研究種目：挑戦的研究 (萌芽)

研究者：滝口哲也

代表／分担：代表

受入金額：2,210千円

研究題目：データサイエンスのアプローチによる金融リスク管理とその波及メカニズムに関する研究

研究種目：基盤研究 (A)

研究者：滝口哲也

代表／分担：分担

受入金額：500千円

研究題目：サービスロボットのための雑音に頑健な音声認識および音声対話の研究

研究種目：研究活動スタート支援

研究者：高島遼一

代表／分担：代表

受入金額：1,430千円

研究題目：構音障害者のための少量学習データでの音声認識モデル構築

研究種目：若手研究

研究者：高島遼一

代表／分担：代表

受入金額：1,820千円

研究題目：降水雲内の帯電電荷を測定する 400MHz 帯ラジオゾンデ搭載用の新型センサーの開発

研究種目：基盤研究(B)

研究者：大石哲
代表／分担：分担
受け入れ金額：100 千円

研究題目：島嶼域に着目した西部北太平洋モンスーンにおけるマルチスケール降水特性の解明
研究種目：基盤研究(B)
研究者：梶川 義幸
代表／分担：代表
受け入れ金額：13,500 千円

研究題目：階層構造を踏まえた気候システム評価手法開発への挑戦
研究種目：学術変革領域研究(B)
研究者：梶川 義幸
代表／分担：代表
受け入れ金額：19,500 千円

研究題目：DNA 気候学実現への挑戦的マネジメント
研究種目：学術変革領域研究(B)
研究者：梶川 義幸
代表／分担：分担
受け入れ金額：200 千円

研究題目：十分なリードタイムを持った確率に基づく洪水予測と最適避難方法論の構築
研究種目：基盤研究(C)
研究者：小林健一郎
代表／分担：代表
受け入れ金額：1,000 千円

13.2 共同研究

14. 教育活動

14.1 講義科目

工学部

- (飯塚) 市民工学倫理 (分担), 連続体力学 (分担), 国際関係論 (分担), 地盤基礎工学 (分担), 高度教養セミナー (分担), 市民工学倫理 (分担)
- (銭谷) 連続体力学 (分担), 市民工学のための技術者倫理 (分担)
- (北後) 建築計画 I, 建築・都市安全計画A, 建築・都市安全計画B, 設計演習 (分担), 計画演習 (分担), 初年次セミナー (分担)
- (長尾) 構造力学 I, 土木設計学, 構造動力学 (分担), 市民工学概論 (分担), 創造思考ゼミナール II (分担)
- (大石) 河川・流域工学, 市民工学概論 (分担), 初年次セミナー (分担), 資源材料とエネルギー (分担), 教養としての市民工学 (分担), 高度教養セミナー (分担), 創造思考ゼミナール II (分担)
- (梶川) 水文学 (分担), 市民工学概論 (分担)
- (橘) 実験及び安全指導 (分担), 創造思考ゼミナール I (分担), 土質力学 II, 教養のための市民工学 (分担), 市民工学概論 (分担)
- (藤永) 防災構造工学 A・B, 建築工学実験 A (分担), 構造設計 IIA (分担), 高度教養セミナー工学部(建築学先端研究) (分担)
- (滝口) デジタル信号処理
- (高島) プログラミング演習4 (分担), メディア情報処理 (分担)
- (小林) 水文学 (分担), 実験及び安全指導 (分担), 水工学の基礎, 市民工学倫理 (分担), 創造思考ゼミナール I (分担)

理学部

- (吉岡) 固体地球物理学 I -1, 惑星学実習 A (分担), 初年次セミナー (分担), 高度教養セミナー理学部惑星学入門 (分担)
- (廣瀬) 初年次セミナー (分担), 惑星学基礎I-1, 固体地球物理学I-2, 固体地球科学1,2 (分担), 惑星学実習A (分担), 高度教養セミナー理学部惑星学入門 (分担)

医学部

- (岩田)
医学科: 卒後臨床研修医指導(感染症内科) 学部生BSL(5年次, 6年次), 感染症後期研修(感染症内科)、微生物学講義(3年次)、薬理学講義
保健学研究科: 健康危機管理特講
- (大路)
医学科: 卒後臨床研修医指導(感染症内科), 学部生チュートリアル(全科), 学部生BSL(5年次, 6年次), 臨床検査医学実習(分担)、抗酸菌感染症総論講義(3年生)
保健学研究科: 感染症特講(分担)、国際保健学(分担)
医学・保健学・理学療法学、他大学共同講義: 「多職種協働」による実践(IPW: Inter-Professional Work)実習(分担)

全学共通授業科目

- (吉岡) 基礎教養科目「惑星学C」(分担)
- (北後) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」(分担)
教養原論「ものづくりと科学技術」(分担)
- (岩田) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」(分担)
- (廣瀬) 基礎教養科目「惑星学C」(分担)
- (長尾) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」(分担)
- (小林) 高度教養セミナー工学部(市民工学)(分担)

大学院工学研究科博士課程前期課程

- (飯塚) 固体計算力学Ⅰ(分担), 固体計算力学Ⅱ(分担), 固体計算力学Ⅲ(分担),
- (北後) 避難計画特論A, 避難計画特論B
- (長尾) 地震工学特論Ⅰ
- (大石) 流域システム, 土木技術英語(分担)
- (梶川) 気候システム論, 流域システム
- (橘) 地盤基礎工学特論
- (小林) 水文学と地理情報
- (藤永) 構造解析学1・2

大学院システム情報学研究科

- (滝口) ヒューマンコンピュータインタラクション論
- (高島) マルチメディア特論

大学院理学研究科博士課程前期課程

- (吉岡) 惑星学要論(分担), 特定研究ⅠⅡ(分担)
- (廣瀬) 惑星学通論4(分担)

大学院理学研究科博士課程後期課程

- (廣瀬) 惑星学特論4(分担)

大学院国際協力研究科博士課程前期課程

- (北後) 国際防災論、国際防災論演習、Disaster Risk Management

大学院工学研究科博士課程後期課程

- (飯塚) 地下構造解析学(分担)
- (北後) 建築都市安全計画学
- (長尾) 地震防災工学
- (大石) 水資源計画
- (梶川) 水資源計画
- (橘) 土地安定対策論
- (藤永) 空間骨組構成論
- (小林) 河川流域計画論

大学院システム情報学研究科博士課程後期課程

(滝口) 知能情報特論 (分担)

(高島) 知能情報特論 (分担)

14.2 非常勤講師

14.3 その他

15. 研究業績

15.1 研究現状の紹介（研究テーマ）

リスク・アセスメント研究部門

地盤環境リスク評価研究分野

主な研究テーマ：持続可能な減災社会インフラ構築のための地盤安全環境評価手法の確立
液状化などの地盤の動的挙動を表現できる地盤材料構成モデルの高度化
広域地盤モデル作成のための地盤物性の把握と入力パラメータの決定法の開発
深海底サンプリングにおける応力変化が土供試体の力学特性に及ぼす影響の定量的評価手法の開発
プレート境界デコルマ帯における変質に伴う力学特性変化の定量化モデルの開発とアスペリティー形成の可能性の検討
デコルマ帯に見られるモンモリロナイト含有粘性土の力学特性の把握とその構成モデル化
放射性廃棄物地層処分におけるモンモリロナイト含有粘性土（ベントナイト材料）の力学特性および変質に伴う力学特性変化の数理モデルの開発

地震災害リスク評価研究分野 吉岡先生が確認

主な研究テーマ：東海・東南海・南海地震の固着域の推定
環太平洋地域のプレートの沈み込みに伴う温度・脱水分布とプレート間地震イベントとの関連性
動的断層破壊に関する数値シミュレーション
環太平洋地域の沈み込み帯におけるGNSSデータを用いたプレートの固着・すべりに関する研究
津波の数値シミュレーション
SSEと群発地震の連動メカニズムの解明
強震動の性質と発生メカニズム

リスク・マネジメント研究部門

社会基盤マネジメント研究分野

主な研究テーマ：地震動の増幅特性の評価法に関する研究
建造物の設計地震動に関する研究
被害地震の地震動評価に関する研究
建造物の耐震性能照査法に関する研究
建造物の耐震信頼性評価に関する研究
杭・地盤相互作用評価に関する研究

減災エリアマネジメント研究分野

主な研究テーマ：都市・地域における安全計画に関する研究
災害時の都市復興計画に関する研究
建築における防火避難計画に関する研究
災害時要援護者の避難安全対策に関する研究
既存不適格建築物の耐震補強に関する研究
被災建造物の補修・補強に関する研究
鋼・コンクリート合成構造に関する研究

リスク・コミュニケーション研究部門

情報コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ： 機械学習に関する研究
画像処理・認識の研究
音声認識・音響情報処理の研究
マンマシーン・コミュニケーションに関する研究
障がい者インターフェースに関する研究

安全コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ： リスクコミュニケーションツールとしてのハザードマップの活用方法
次世代型偏波レーダーによる降水量推定・降水予測の高精度化と水管理へのインパクト評価
短時間降雨予測の不確実情報を用いた住民へのリスクコミュニケーションに関する研究
次世代型洪水流出・氾濫モデルの開発
スーパーコンピュータを用いた斜面崩壊の大規模シミュレーション
洪水時の避難行動モデルの開発

感染症リスク・コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ： 都市安全の公衆衛生学的分析
災害対応の医療情報システム
医療技術のリスクと評価
リスク下での医学意思決定
TBLの研究
指導医講習会のあり方に関する研究
腸管スピロヘータ症の研究
ライム病の研究
東日本大震災と感染症に関する研究
パンデミックインフルエンザに関する研究
災害ボランティアにおける安全衛生
MRSA腸炎の存在証明に関する研究
アニサキス症予防のための魚介類冷凍の味覚に関する研究
結核喀痰塗抹採取時間に関する研究
感染症後期研修の質に関する研究

15.2 著 書

(北後)

備えのリアリズム, 美しい未来をつくるひとのための15のはなし,
神戸大学出版会, pp.112~116, 2021.3

(藤永)

複合構造レポート 16 コンクリート充填鋼管適用技術の現状と最先端
土木学会, ISBN978-4-8106-1027-7, 2021年1月(第2章分担執筆)

(大石)

Climate Change-Sensitive Water Resources Management (IAHR Monographs)

Teegavarapu, Ramesh S.V.; Kolokytha, Elpida; Galvão, Calros de Oliveira (Eds.),
CRC Press, ISBN 978-0367257880

15.3 学術論文

(飯塚)

Three-dimensional Effects of Rectangular Embankment Loading Placed on Soft Ground

Ito, H., Iizuka, A. and Ohta, H.: International Journal of GEOMATE, Vol.19, Issue 73, pp. 148-155, 2020.9, DOI: 10.21660/2020.73.96594

ISSN: 2186-2982 (P), 2186-2990 (O), Japan, DOI: <https://doi.org/10.21660/2020.73.96594>

Leaning Pagoda of Ayutthaya Analysis with Three-Dimensional Effects and Ground Uncertainty

Ito, H., Ishida, Y., Sansaard, V., Takeyama, T. and Iizuka, A.: International Journal of GEOMATE, June, 2021, Vol.20, Issue 82, pp.161-169, DOI:

<https://doi.org/10.21660/2021.82.j2108>, 2021

(飯塚・橘)

Constitutive model with a concept of plastic rebound for expansive soils.

Tachibana, S., Ito, S. and Iizuka, A.: Soils and Foundations, Vol. 60, No. 1, pp. 179-197, 2020. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.sandf.2020.02.007>

Practical method to estimate parameters of elasto-plastic constitutive model for unsaturated soils from compaction curve,

Tachibana, S., Matsumoto, M. and Iizuka, A.: Soils and Foundations, Vol. 60, No. 5, pp. 1287-1298, 2020. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.sandf.2020.08.005>

(銭谷)

Plasmoid-dominated Turbulent Reconnection in a Low- β Plasma

S. Zenitani and T. Miyoshi, Astrophysical Journal Letters, 894, L7, 2020

Two-Dimensional Reconstruction of a Time-Dependent Mirror Structure from Double-Polytropic MHD simulation

W.-L. Teh and S. Zenitani, Earth and Space Science, 8, e2020EA001449, 2021

(橘)

Impact of variation in seismic parameters on the base width of dam body.

Rasool, A.M., Tachibana, S., Ahmad, H.M., Tahir, M.F.: International Journal of GEOMATE, Vol.18, No.69, pp. 44-51, 2020. DOI: <https://doi.org/10.21660/2020.69.07856>

(吉岡)

Contrasting volcano spacing along SW Japan arc caused by difference in age of subducting lithosphere,

Yoshiyuki Tatsumi, Nobuaki Suenaga, Shoichi Yoshioka, Katsuya Kaneko and Takumi Matsumoto, Scientific Reports, 10, 15005, 2020

Depth variation of seismic moment and recurrence interval in Japan,

Yingfeng Ji and Shoichi Yoshioka, Geoscience Letters, 8, 4, 2021

Slab dehydration in Sumatra: Implications for fast and slow earthquakes and arc magmatism, Yingfeng

Ji, Ruyun Yan, Deng Zeng, Chaodi Xie, Weiling Zhu, Rui Qu and Shoichi Yoshioka, Geophysical Research Letters, 48, 2020GL090576, 2021

(廣瀬)

Slip distributions of short-term slow slip events in Shikoku, southwest Japan from 2001 to 2019 based

on tilt change measurements,

Hitoshi Hirose and Takeshi Kimura, J. Geophys. Res., 125, e2020JB019601.
doi:10.1029/2020JB019601, 2020.

(長尾)

Seismic Resistant Design Method for Open-Type Wharf with Pneumatic Caisson Foundation

D. Shibata, T. Nagao, International Journal of Safety and Security Engineering, Vol. 10, No. 2, 2020, 209-218

An Experimental Study on the Way Bottom Widening of Pier Foundations Affects Seismic Resistance.

T. Nagao, Engineering, Technology & Applied Science Research Vol. 10, No. 3, 2020, 5713-5718

State of Seismic Hazard Analysis: Reviewing the Needs after Mw 7.8 Gorkha, Nepal Earthquake

T. N. Bhattarai, T. Nagao, T. N. Lohani, Journal of Development Innovations, Vol. 4, No. 1, 2020, 48 - 63

Source- and Site-Specific Earthquake Ground Motions: Application of a State-of-the-Art Evaluation Method

T. Nagao, Y. Fukushima, Engineering, Technology & Applied Science Research Vol. 10, No. 4, 2020, 5882-5888

控え直杭式矢板岸壁に作用する土圧用震度についての研究

宮下健一朗, 長尾 毅, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.76, No.4, p. I_596-I_609, 2020

Effect of Foundation Width on Subgrade Reaction Modulus

T. Nagao, Engineering, Technology & Applied Science Research Vol. 10, No. 5, 2020, 6253-6258

(北後)

Feasibility of evacuating vulnerable people during a tsunami: Comparing assistant velocities with a wheelchair, transport chair, and rollator on three different inclines outdoors.

Nobuhito Ohtsu, Akihiko Hokugo, Abel Táiti Konno Pinheiro, Jihyang Lee, JAPAN ARCHITECTURAL REVIEW, 3(2), 218-230, April 2020

2016年熊本地震に伴って発生した地震火災に関する調査,

廣井悠, 岩見達也, 高梨成子, 樋本圭佑, 北後明彦, 火災学会論文集, Vol.70, No.1, pp.27-33, 2020

Evacuation Behavior: Why Do Some People Never Evacuate to a Cyclone Shelter During an Emergency? A Case Study of Coastal Bangladesh.

Swarnali Chakma, Akihiko Hokugo, JOURNAL OF DISASTER RESEARCH, 15(4), 481-489, June 2020

実験で得られた定量的データを用いた災害時要援護者の津波避難速度の試算—地区防災計画に避難支援時の避難困難区域を図示する方法の一案—,

大津暢人, 北後明彦, 地区防災計画学会誌, 第18号, 2020.8

Patterns of emergency shelters in coastal plains a case study after the great east Japan Earthquake and Tsunami in Higashi-Matsushima City.

Araki Yuko, Soaro Tsuboi, Akihiko Hokugo, JAPAN ARCHITECTURAL REVIEW, 3(4), 552-563, October 2020

Explosion at an aluminum factory caused by the July 2018 Japan floods: Investigation of damages and evacuation activities.

Yuko Araki, Akihiko Hokugo, Abel Táiti Konno Pinheiro, Nobuhiro Ohtsu, Ana Maria Cruz, Journal of Loss Prevention in the Process Industries, DOI:10.1016/j.jlp.2020.104352, March

(藤永)

梁貫通形式角形 CFT 柱梁接合部における貫通梁直交方向の接合部性能に関する実験的研究

藤永隆, コンクリート工学年次論文集, Vol.42, No.2, pp.919-924, 2020年7月

Performance of Orthogonal Direction on Continuous Beam Type CFST Beam-to-Column Connection

T.Fujinaga and C.G.Clifton, Proceedings of 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2020.9

Real-Time Hybrid Test Using Multi-Actuators to Estimate Response Control Performance of RC Frame Structure

Ayaka Yokoyama, Kohiro Fushihara, Yoichi Mukai, Takashi Fujinaga and Hideo Fujitani, Proceedings of 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2020.9

Real-Time Hybrid Test Using Two-Individual Actuators to Evaluate Seismic Performance of RC Frame Model Controlled by AMD

Yoichi Mukai, Ayaka Yokoyama, Kohiro Fushihara, Takashi Fujinaga and Hideo Fujitani, Frontiers in Built Environment, Vol.6, 2020.11

(滝口・高島)

Multimodal fusion for indoor sound source localization

Jinhui Chen, Ryoichi Takashima, Xingchen Guo, Zhihong Zhang, Xuexin Xud, Tetsuya Takiguchi, Edwin R.Hancock, Pattern Recognition, Vol. 115, 2021.

Pain induces stable, active microcircuits in the somatosensory cortex that provide a therapeutic target

Takuya Okada, Daisuke Kato, Yuki Nomura, Norihiko Obata, Xiangyu Quan, Akihito Morinaga, Hajime Yano, Zhongtian Guo, Yuki Aoyama, Yoshihisa Tachibana, Andrew J. Moorhouse6, Osamu Matoba, Tetsuya Takiguchi, Satoshi Mizobuchi and Hiroaki Wake, Science Advances, Vol. 7, no. 12, Feb. 2021.

Quantitative Evaluation of Handwriting Skills During Childhood

Yusuke Watanabe, Taro Ohtoshi, Tetsuya Takiguchi, Akira Ishikawa, Satoshi Takada, Kobe Journal of Medical Sciences, Vol. 66, No. 2, pp. E49-E55, 2020.

Dysarthric Speech Recognition Based on Deep Metric Learning

Yuki Takashima, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arika, Interspeech, pp. 4796-4800, DOI: 10.21437/Interspeech.2020-2267, Oct. 2020.

Opera Singing Voice Synthesis Considering Vowel Variations

Kenta Katahira, Yuji Adachi, Kiyoto Tai, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE), pp. 663-664, Oct. 2020.

Convolutional neural networks Memory Optimization Inference with Splitting Image

Weihaio Zhuang, Tristan Hascoet, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi and Yasuo Arika, IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE), pp. 678-679, Oct. 2020.

An Investigation of End-to-End Speech Recognition Using Model Adaptation for Dysarthric Speakers

Yuya Sawa, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE), pp. 712-713, Oct. 2020.

Two-Step Acoustic Model Adaptation for Dysarthric Speech Recognition

Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arika, ICASSP, pp. 6104-6108, May 2020.

(大石)

A real-time tephra fallout rate model by a small-compact X-band Multi-Parameter radar

Syarifuddin, Magfira; Oishi, Satoru; Nakamichi, Haruhisa; Maki, Masayuki; Hapsari, Ratih Indri; Mawandha, Ganara, Hanggar; Aisyah, Nurnaning; Basuki, Ahmad; Loeqman, Agoes; Shimomura, Makoto; Iguchi, Masato; Journal of Volcanology and Geothermal Research No.405, pp.1-22, 2020.

Breaking Limits of Remote Sensing by Deep Learning from Simulated Data for Flood and Debris Flow Mapping

Naoto Yokoya, Kazuki Yamanoi, Wei He, Gerald Baier, Bruno Adriano, Hiroyuki Miura, Satoru Oishi, IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing, TGRS-2020-01145, DOI: 10.1109/TGRS.2020.3035469, 2020.

ビデオゾンデと数値シミュレーションによる雲内の雨滴粒径分布計測手法に関する研究

大石哲・南郷脩介・梶川義幸・山浦剛・鈴木賢士・山口弘誠・中北英一, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.76, No.2, pp.I_199-I_204, 2020.

2次元CADから3次元モデルを自動構築する技術に関する研究

大谷英之・大石哲・石田哲也・亀田敏弘・米田大樹・土屋智史・井上直・市村強・堀宗朗, 第2回 i-construction の推進に関するシンポジウム講演集, 4p., 2020.

インフラデータの汎用的自動3次元可視化のための基礎的研究

亀田敏弘・大谷英之・大石哲・堀宗朗, 第2回 i-construction の推進に関するシンポジウム講演集, 4p., 2020.

(小林)

Inundation analysis using coupling storage function model with a distributed hydrological model in Kushiro marsh

Shino Sakaguchi, Keisuke Nakayama, Kenichiro Kobayashi and Katsuaki Komai : , Japan, Hydrological Research Letters 14(2), 75–80, 2020, DOI: 10.3178/hrll.14.75, 2020

韓国・蔚山広域市における洪水災害避難所の選定および評価,

BAE CHANG YEON, 小林健一郎: 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.76, No.2, I_709-I_714, 2020

A rainfall-runoff/flood-inundation model for Myohouji River basin Kobe Japan with rainwater sewage channels.

Kenichiro Kobayashi, Astushi Tamura, Ichiro Fujita, Akinobu Yamamoto and Kazuyoshi Kanayama : Proceedings of the 22nd IAHR-APD Congress, pp. 1-6, <https://iahrapd2020.xsrv.jp/proceedings/pdf/4-3-8.pdf>, 2020

(山浦)

Interannual Variability of Baiu Frontal Activity in May and its Connectivity with June.

Tomita, T., and T. Yamaura, J. Meteor. Soc. Japan, 98, 329-351, 2020

Effects of the Australian winter monsoon on the persistence of La Niña events.

Tomita, T., T. Shirai, and T. Yamaura, J. Meteor. Soc. Japan, 98, 189-211, 2020

(岩田)

Elimination of covid-19: a practical roadmap by segmentation.

Kentaro Iwata, Yuki Aoyagi, BMJ (Clinical research ed.) 372 n349 2021 年 2 月 8 日

Impact of Infectious Disease Consultation on Management and Outcomes of Infective Endocarditis.

Takayuki Okura, Kentaro Iwata, Taiji Koyama, Kei Ebisawa, Yu Arakawa, Mari Kusuki, Goh Ohji The Annals of thoracic surgery 2020年11月26日

Use of Rifampin Compared with Isoniazid for the Treatment of Latent Tuberculosis Infection in Japan: A Bayesian Inference with Markov Chain Monte Carlo Method.

Kentaro Iwata, Naomi Morishita, Masami Nishiwaki, Chisato Miyakoshi, Internal medicine (Tokyo, Japan) 59(21) 2687-2691 2020年11月1日

A concern regarding estimated sensitivities and specificities of nasopharyngeal and saliva specimens for SARS-CoV-2 infection.

Kentaro Iwata, Kenichi Yoshimura, Clinical infectious diseases : an official publication of the Infectious Diseases Society of America 2020年10月26日

Was school closure effective in mitigating coronavirus disease 2019 (COVID-19)? Time series analysis using Bayesian inference.

Kentaro Iwata, Asako Doi, Chisato Miyakoshi, International journal of infectious diseases : IJID : official publication of the International Society for Infectious Diseases 99 57-61 2020年10月

Unilateral inguinal lymphadenitis caused by Yersinia pseudotuberculosis. A case report.

Kentaro Iwata, Naomi Morishita, Yoshiyuki Masuda, Maki Kodama, Sachiyo Otani, Ayaka Naito Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy 2020年5月5日

15.4 学術報告

(飯塚)

Paradigm shift of disaster prevention and mitigation by city scale simulation, Iizuka,A., Special Contribution, IPA News Letter, Vol.5, Issue.2., pp.5-8, 2020,6

高レベル放射性廃棄物地層処分における性能設計, 飯塚敦, 原子力バックエンド研究, 日本原子力学会, Vol.27, No.2, pp.115-118, 2020.12

都市デジタルツインによる防災減災パラダイムシフト, 飯塚敦 :, 技術展望, 土木構造・材料論文集, 第36号, pp.15-19, 九州橋梁・構造工学研究会, 土木学会西部支部, 2020.12

ベイズ推定を用いた災害即時の被害予測による応急対応タイムラインの実効性の向上, 飯塚敦, 高速道路と自動車, 公益財団法人高速道路調査会, 第63巻, 第9号, pp.9-10, 2020.9

室内試験に基づく繰り返し挙動を表現できる構成モデルのパラメータ同定方法, 加藤知彦, 山本百華, 竹山智英, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第24号, pp.44-52, 2020
最適化手法を用いた土/水連成問題に対する分離型解法の収束性に関する研究
北野井智希, 竹山智英, 飯塚敦

(飯塚・橋)

せん断強度に基づく飽和度変化に起因する硬化特性の定量的評価, 有井拓也, 林啓太, 橋伸也, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第24号, pp.18-24, 2020

ベイズ推定を用いた被害規模予測モデルの改善, 小林宗一郎, 本田和也, 橋伸也, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第24号, pp.25-33, 2020

層間水の脱水による土粒子密度変化を考慮した連続条件式, 前川慎太郎, 岩木友哉, 飯塚敦, 橋伸也, 都市安全研究センター研究報告, 第 24 号, pp.34-43, 2020

ベントナイトの膨張圧試験における壁面摩擦の影響に関する数値解析的検討, 小山円香, 伊藤真司, 橋伸也, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第 24 号, pp.66-76, 2020

(銭谷)

磁気リコネクションにおけるプラズマ粒子軌道研究の進展, 銭谷誠司, プラズマ核融合学会誌, 97, pp.47-55, 2021

(吉岡)

東北地方太平洋沖地震に伴うプレート間における余効すべりと固着の時空間分布, 吉岡 祥一・Yuval A. Banay・田中 もも・末永 伸明・佐藤 圭介, 東濃地震科学研究所報告, Seq. no.44, 33-49, 2020

津波波形を用いた 2018 年 Kodiak 地震の断層すべり分布のインバージョン, 浮田 英典・吉岡 祥一・中村 嘉孝・馬場 俊孝・末永 伸明, 神戸大学都市安全研究センター 研究報告, 第 24 号, 1-9, 2020

南九州におけるフィリピン海プレートの沈み込みに伴う 2 次元温度構造モデリング, 吉岡 祥一・末永 伸明・松本 拓己・季 穎鋒, 東農地震科学研究所報告, 40, 125-141, 2018.

津波地震の津波数値シミュレーション, 中村 嘉孝・吉岡 祥一・末永 伸明・馬場 俊孝, 神戸大学都市安全研究センター 研究報告, 第 22 号, 1-19, 2018.

(廣瀬)

地震数データから応力変化量を推定する手法の試行, 廣瀬仁・卯川知希, 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 24, 10-17, 2020.

(長尾)

深層地盤を考慮した地震動増幅特性の評価指標, 長尾 毅, 都市安全研究センター研究報告, 2020

(北後)

Feasible evacuation and tsunami resilient coastal community, Kaumadi Abeyweera, Akihiko Hokugo, 都市安全研究センター研究報告, 第 24 号, pp.87-93, 2020

Importance of Community Role in Landslide Disaster Management in Chittagong Hill Tracts Area, Bangladesh, Dhrupadi Khisa, Akihiko Hokugo, 都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp.87-96, 2021

(藤永)

梁貫通形式角形 CFT 柱梁接合部に関する実験的研究, 土居晃基, 藤永隆, 村田瑞穂, 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 第 24 号, pp.94-104, 2020

(滝口)

ゲート制御付き Source-Target Attention を用いた複数知識文に基づく応答文の生成, 佐良 和孝, 滝口 哲也, 有木 康雄, 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会, pp. 20-23, 2020-11.

雑談対話モデルの関連性向上のための関連語を優先した応答文生成手法の検討, 麻生 大聖, 滝口 哲也, 有木 康雄, 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会, pp. 42-45, 2020-11.

15.5 学術講演

(飯塚)

粘性曲面モデルを用いた二次圧密における層厚～載荷時間関係の表現, 平田昌史, 太田秀樹, 飯塚敦, 第 55 回地盤工学研究発表会 (オンライン), 21-10-1-07, 2020

液状化後の地盤沈下現象に着目した都市全体解析に関する研究～解析パラメータの同定～, 末光明信, 佐藤毅, 飯塚敦, 竹山智英, 第 55 回地盤工学研究発表会 (オンライン), 21-11-4-06, 2020

液状化後の地盤沈下現象に着目した都市全体解析に関する研究～千葉県浦安市における測量結果との比較検討～, 末光明信, 佐藤毅, 飯塚敦, 竹山智英, 第 55 回地盤工学研究発表会 (オンライン), 21-11-4-07, 2020

盛土の遠心模型実験に対する動的数値シミュレーション, 山本百華, 加藤知彦, 竹山智英, 飯塚敦, 第 55 回地盤工学研究発表会 (オンライン), 22-7-2-08, 2020

(銭谷)

A comparison of relativistic particle integrators in a fast magnetized flow (2), 銭谷誠司, 加藤恒彦, 日本地球惑星科学連合 2020 年大会, オンライン, 2020 年 7 月

Issues in kinetic modeling of relativistic magnetic reconnection, S. Zenitani, 3rd Asia-Pacific Conference on Plasma Physics (AAPPS-DPP2020), Online, October 2020

Plasmoid-dominated Turbulent Reconnection in a Low-beta Plasma, 銭谷誠司, 三好隆博, 地球電磁気・地球惑星圏学会 第 148 回講演会, オンライン, 2020 年 11 月

Plasmoid-dominated Turbulent Reconnection in a Low-beta Plasma, S. Zenitani, T. Miyoshi., AGU Fall Meeting 2020, Online, USA, December 2020

プラズマ粒子シミュレーションの高精度数値解法の開発, 銭谷誠司, 加藤恒彦, 梅田隆行, 高エネルギー宇宙物理学研究会 2020, オンライン, 2020 年 12 月

プラズモイド磁気リコネクションの MHD 計算と公開コード「OpenMHD」の開発, 銭谷誠司, 三好隆博, 近藤光志, 2020 年度太陽研連・太陽スペース研究シンポジウム, オンライン, 2020 年 12 月

PIC シミュレーションの粒子加速部の高次精度数値解法, 銭谷誠司, 加藤恒彦, STE シミュレーション研究会・KDK シンポジウム 合同研究会, オンライン, 2021 年 3 月

(飯塚, 橘)

ベントナイト緩衝材を対象とした不飽和弾塑性構成モデルとパラメータ推定手法の提案
伊藤真司, 橘伸也, 飯塚敦, 第 55 回地盤工学研究発表会 (オンライン), 23-7-3-08, 2020

せん断強度から不飽和土の圧縮・硬化特性を類推する方法の提案, 有井拓也, 林啓太, 橘伸也, 飯塚敦, 第 55 回地盤工学研究発表会 (オンライン), 23-1-4-08, 2020

不飽和ベントナイト供試体の吸水膨潤による隙間充填過程シミュレーション, 太田有祐, 伊藤真司, 浅妻大樹, 橘伸也, 飯塚敦, 林大介, 石井智子, 第 55 回地盤工学研究発表会 (オンライン), 21-2-3-05, 2020

飽和ベントナイト供試体の吸水による側方膨潤シミュレーション, 入江弘樹, 伊藤真司, 橘伸也, 飯塚敦, 令和 2 年度土木学会全国大会講演概要集, CS12-18, 2020

(橘)

地層処分におけるベントナイトオプシオンの検討 不飽和土/水連成有限要素解析による膨潤圧シミュレーション, 橘伸也, 伊藤真司, 太田有祐, 渡邊保貴, 新橋美里, 横山信吾, 山本陽一, 後藤孝裕, 令和2年度土木学会全国大会講演概要集, CS12-14, 2020

壁面摩擦の影響を考慮したベントナイト膨潤圧シミュレーション, 小山円香, 伊藤真司, 橘伸也, 令和2年度土木学会全国大会講演概要集, CS12-19, 2020

(吉岡)

琉球海溝周辺におけるフィリピン海プレートの沈み込みに伴う3次元熱対流数値シミュレーション, 末永 伸明・吉岡 祥一, C01 班オンライン研究集会 (オンライン), 2020/4/14, 2020.

最近の研究成果と今年度の取り組みについて, 吉岡 祥一・末永 伸明・阿部 大毅, C01 班オンライン研究集会 (オンライン), 2020/4/14, 2020.

3-D thermal modeling of generation mechanisms for short-term slowslip events and low-frequency earthquakes along the Ryukyu trench, Nobuaki Suenaga and Shoichi Yoshioka, JpGU-AGU Joint Meeting 2020 (オンライン), SCG58-P25, 2020/7/9, 2020/7/16, 2020.

2011年東北地方太平洋沖地震前15年間のプレート間カップリングの時空間分布の推定, 阿部大毅・吉岡 祥一, JpGU-AGU Joint Meeting 2020 (オンライン), SSS14-11, 2020/7/12, 2020.

最近の研究成果について, 吉岡 祥一・末永 伸明・阿部 大毅, Slow Earthquakes WS 2020 Virtual (オンライン), 2020/9/17, 2020.

東北地方太平洋沖地震後の余効すべりと固着の分布 ~温度に依存する粘性構造モデルを用いて~, 吉岡 祥一, 神戸大学都市安全研究センター第1回 震災復興・災害科学シンポジウム 東日本大震災から10年 ~わかってきたこと、今伝えたいこと~ (オンライン), 2021/1/9, 2021.

Three-dimensional thermal modeling associated with subduction of the Cocos plate beneath southwestern Mexico, and its relation to the occurrence of interplate seismic events, Nobuaki Suenaga, Shoichi Yoshioka, Vlad Constantine Manea and Marina Manea, Online Workshop in February 2021 for “The Project for Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation” (オンライン), 2021/2/26, 2021.

(廣瀬)

Slow Slip Events in the Afterslip Area of the 1996 Hyuganada Earthquakes, Southwest Japan, Based on GNSS Data, Sawako Teshiba, Hitoshi Hirose, AGU Fall Meeting 2020, 2020-12-01 - 17, 2020.

GNSS データを用いた短期的スロースリップイベントの検出手法の開発と南海沈み込み帯への適用, 岡田悠太郎・西村卓也・田部井隆雄・松島健・廣瀬仁, 日本測地学会第134回講演会, 2020年10月21-23日, 2020.

Slip distributions of short-term slow slip events in Shikoku, southwest Japan from 2001 to 2019 based on tilt change measurements, 廣瀬仁・木村武志, Slow Earthquakes WS 2020 Virtual, 2020年9月16-17日, 2020

Slow slip events in the afterslip area of the 1996 Hyuganada earthquakes, based on GNSS data, Sawako Teshiba, Hitoshi Hirose, Slow Earthquakes WS 2020 Virtual, 2020年9月16-17日, 2020.

房総スロースリップイベントに伴う群発地震活動に基づく応力変化の推定, Tomoki Ukawa, Hitoshi Hirose, Slow Earthquakes WS 2020 Virtual, 2020年9月16-17日, 2020.

Slip distributions of short-term slow slip events in the northern Kii Peninsula based on NIED Hi-net tilt measurements, Naoya Chujo, Hitoshi Hirose, Takeshi Kimura, Slow Earthquakes WS 2020 Virtual, 2020 年 9 月 16-17 日, 2020.

Development of the Detection Method for Short-term Slow Slip Events by Using GNSS Data And its application to the Nankai Subduction Zone, Yutaro OKADA, Takuya NISHIMURA, Takao TABELI, Takeshi MATSUSHIMA, Hitoshi HIROSE, Slow Earthquakes WS 2020 Virtual, 2020 年 9 月 16-17 日, 2020.

Detection of short-term slow slip events and estimation of their duration by using three components of GNSS data in the Nankai subduction zone, southwest Japan, Yutaro Okada, Takuya NISHIMURA, Takao Tabei, Takeshi Matsushima, Hitoshi Hirose, JPGU-AGU 2020, 12-16 July, 2020 (Virtual), SCG58-08, 2020.

Slip distributions of short-term slow slip events in the northern Kii Peninsula based on NIED Hi-net tilt measurements, Chujo Naoya, Hitoshi Hirose, Takeshi Kimura, JPGU-AGU 2020, 12-16 July, 2020 (Virtual), SCG58-P22, 2020.

Spatiotemporal evolution of interplate slip in the Hyuganada and the Bungo Channel from 1996 to 2000 based on GNSS data, Sawako Teshiba, Hitoshi Hirose, JPGU-AGU 2020, 12-16 July, 2020 (Virtual), SCG58-P38, 2020.

An estimation of stress changes based on earthquake swarm seismicity accompanied by Boso slow slip events, Tomoki Ukawa, Hitoshi Hirose, JPGU-AGU 2020, 12-16 July, 2020 (Virtual), SCG58-P39, 2020.

Slip distributions of short-term slow slip events in Shikoku, southwest Japan from 2001 to 2019 based on tilt change measurements, 廣瀬仁・木村武志, スロー地震学 A01-A02 班合同オンライン研究会, 2020 年 6 月 16, 23, 30 日, 2020.

(長尾)

底部拡幅ケーソン基礎式栈橋の耐震性に関する実験的検討, 長尾 毅, 山岡理恵, 二宮庸平, 柴田大介, 土木学会年次学術講演会, 2020

(北後)

Flood triggered oil spills: Lessons from the Natech accident in Saga prefecture in August 2019., E.Garnier, Alessio Misuri, Ana Cruz, Hyejeong Park, Nobuhito Ohtsu, Akihiko Hokugo, Isamu Fujita, Shin-ichi Aoki, Valerio Cozzani, 57th Natural Disaster Science Symposium, Natural Disaster Research Council, September 2020

西日本豪雨時の災害時要配慮者利用施設における避難対応に関する事例研究, 寥解放, 大村太秀, 北後明彦, 日本建築学会 2020 年度大会, 2020 年 9 月

2019 年台風 19 号により浸水した千曲川流域の要配慮者利用施設における避難対応の事例調査, 寥解放, 大村太秀, 北後明彦, 日本火災学会研究発表会, 2020 年 5 月

近隣呼びかけ避難に伴う世帯避難率の向上と総避難時間の延伸—2018 年西日本豪雨で被害を受けた岡山県倉敷市真備町岡田地区における水平避難訓練—, 大村太秀, 北後明彦, 大津暢人, 日本火災学会研究発表会, 2020 年 5 月

(藤永)

振動台と油圧アクチュエータを利用したリアルタイム・ハイブリッド実験 その 1 1 層 RC フレーム構造の応答制御を想定した予備実験, 横山綾香, 伏原小裕, 向井洋一, 藤永隆, 藤谷秀雄, 日本建築学会近畿支部研究報告会, 2020 年

有孔鋼板隅肉溶接による鋼梁端部の開口補強に関する実験的研究, 川端智哉, 藤永隆, 全培糊,

2020 年度日本建築学会大会, 2020 年 9 月

梁貫通形式角形 CFT 柱梁接合部に関する実験的研究 (その 3) コンクリート強度の影響, 土居晃基, 藤永隆, 2020 年度日本建築学会大会, 2020 年 9 月

鋼管拘束下の孔あき鋼板ジベルの引抜き耐力に及ぼす鋼コンクリート間の付着の影響, 長岡優花, 藤永隆, 田中照久, 2020 年度日本建築学会大会, 2020 年 9 月

振動台と油圧アクチュエータの同期による RC 構造建物のリアルタイム・ハイブリッド実験 (その 1 油圧アクチュエータの駆動の時間遅れ補償), 太田雅也, 横山綾香, 伏原小裕, 向井洋一, 藤永隆, 藤谷秀雄, 2020 年度日本建築学会大会, 2020 年 9 月

振動台と油圧アクチュエータの同期による RC 構造建物のリアルタイム・ハイブリッド実験 (その 2 リアルタイム・ハイブリッド実験の概要と AMD による応答制御の検証), 横山綾香, 太田雅也, 伏原小裕, 向井洋一, 藤永隆, 藤谷秀雄, 2020 年度日本建築学会大会, 2020 年 9 月

(滝口・高島)

CycleVAE 型声質変換を用いた構音障害者のための高明瞭度音声合成, 松原圭亮, 岡本拓磨, 高島遼一, 滝口哲也, 戸田智基, 志賀芳則, 河井 恒, 日本音響学会 2021 年春季研究発表会講演論文集, 1-2-3, pp. 783-786, 2021-03.

マルチモーダル音声認識における Local attention を用いた音声画像統合方式, 角田 遼太, 相原龍, 高島 遼一, 滝口 哲也, 本山 信明, 日本音響学会 2021 年春季研究発表会講演論文集, 1-2P-1, pp. 957-960, 2021-03.

口唇口蓋裂者の音声認識のためのデータ拡張方式の検討, 富士原 健斗, 高島 遼一, 杉山 千尋, 田中 信和, 野原 幹司, 野崎 一徳, 滝口 哲也, 日本音響学会 2021 年春季研究発表会講演論文集, 1-2P-2, pp. 961-964, 2021-03.

母音発音と歌唱速度の変化を考慮したアカペラオペラ歌声合成, 片平 健太, 足立 優司, 田井清登, 高島 遼一, 滝口 哲也, 日本音響学会 2021 年春季研究発表会講演論文集, 1-2P-10, pp. 991-994, 2021-03.

Dysarthric Speech Conversion by Learning Disentangled Representations with Non-parallel Data, 陳訓泉, 陳 金輝, 高島 遼一, 滝口 哲也, 日本音響学会 2021 年春季研究発表会講演論文集, 1-2Q-12, pp. 1037-1040, 2021-03.

自己教師あり学習によるラベル無し自由発話を用いた構音障害者音声認識, 澤 佑哉, 富士原健斗, 相原 龍, 高島 遼一, 滝口 哲也, 本山 信明, 日本音響学会 2021 年春季研究発表会講演論文集, 2-2P-2, pp. 1045-1048, 2021-03.

Deep Prior を用いた聴覚誘発反応の電流源推定, 山名 莉央, 矢野 肇, 高島 遼一, 滝口 哲也, 中川 誠司, 日本音響学会 2021 年春季研究発表会講演論文集, 2-4P-10, pp. 679-682, 2021-03.

クロスチャネル言語識別における wav2vec を用いた自己教師あり特徴量学習, 吉本 拓真, 沈鵬, Lu Xugang, 高島 遼一, 滝口 哲也, 河井 恒, 日本音響学会 2021 年春季研究発表会講演論文集, 3-2-15, pp. 915-916, 2021-03.

ルールベースと生成ベースを融合した雑談対話の発話生成手法, 薛強, 滝口哲也, 有木康雄, 言語処理学会第 27 回年次大会発表論文集, P8-9, pp. 1590-1592, 2021-03.

Style Transfer を用いた電子顕微鏡画像の合成, 中嶋彩也香, Xuejiao Deng, Tristan Hascoet, 高島遼一, 滝口哲也, 情報処理学会第 83 回全国大会講演論文集, 5M-03, pp.-, 2021-03.

Full-band LPCNet : 48kHz リアルタイムニューラルボコーダ, 松原圭亮, 岡本拓磨, 高島遼一, 滝口哲也, 戸田智基, 志賀芳則, 河井 恒, 日本音響学会 2020 年秋季研究発表会講演論文集, 2-2-1, pp. 755-758, 2020-09.

アカペラ歌唱における歌唱速度の変化を考慮した歌声合成に関する検討, 片平 健太, 足立 優司, 田井 清登, 高島 遼一, 滝口 哲也, 日本音響学会 2020 年秋季研究発表会講演論文集, 2-P3-16, pp. 875-876, 2020-09.

構音障害者音声認識における発話辞書適応の検討, 澤 佑哉, 高島 遼一, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2020 年秋季研究発表会講演論文集, 3-2-10, pp. 805-808, 2020-09.

構音障害者音声認識における認識モデルの比較評価, 高島 遼一, 有木 康雄, 滝口 哲也, 日本音響学会 2020 年秋季研究発表会講演論文集, 3-2-11, pp. 809-812, 2020-09.

Convolutional Neural Networks with Skeleton Kernel, Weihao Zhuang, Tristan Hascoet, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arika, 第 23 回画像の認識・理解シンポジウム, IS3-2-31, 4 pages, Aug. 2020.

(小林)

Consideration of the advantages to use a supercomputer for flood risk management, Kenichiro Kobayashi, 3rd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE), 8-11 December, Kobe, Japan, 2020

(岩田)

僕が考える感染症新時代—日本から世界への情報発信—, 岩田健太郎, 第 94 回日本感染症学会総会・学術講演会

感染症の考え方, 岩田健太郎, 第 63 回春季日本歯周病学会学術大会

16. 研究指導

16.1 博士論文

膨潤性地盤材料の構成則開発とベントナイト緩衝材の品質評価への適用, 伊藤真司, 工学研究科市民工学専攻, 神戸大学博士(工学), 主査: 飯塚敦, 副査: 澁谷啓, 橘伸也, 竹山智英

地震情報に基づく被害規模と地盤災害の予測に関する基礎的研究, 本田和也, 工学研究科市民工学専攻, 神戸大学博士(工学), 主査: 飯塚敦, 副査: 澁谷啓, 大石哲, 竹山智英

16.2 修士論文

リスク・アセスメント研究部門

膨潤性地盤材料を対象とした熱/水/空気/応力連成解析手法の開発, 太田有祐, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻(飯塚・銭谷・橘)

粘土鉱物の変質に伴う間隙水圧の上昇とスロースリップ現象との関係, 酒井貴寛, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻(飯塚・竹山・橘)

不飽和土構成モデルを用いた盛土の水浸沈下解析, 難波智徳, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻(飯塚・竹山・橘)

機械学習を用いた過圧密比の深度分布推定, 陳 冉, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻(竹山・飯塚・橘)

土/水/空気連成動的解析を用いたアーチ効果の液状化への影響評価, 林 啓太, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻(竹山・飯塚・銭谷)

Spatiotemporal distributions of interplate coupling in Tohoku, northeast Japan, for 14 years prior to the 2011 Tohoku-Oki earthquake inverted from GNSS data, 阿部大毅, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻(吉岡)

GNSS データに基づく日向灘地域での非地震性すべりの研究, 手柴沙和子, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻(廣瀬)

リスク・マネジメント研究部門

豪雨災害時における住民の予防的避難促進に関する研究, 大村太秀, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻(北後)

A Case Study of Devastative Landslides and its Preparedness and Mitigation in Chittagong Hill Districts, Bangladesh, DHRUPADI KHISA, 神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻(北後)

Evacuation Behavioral Analysis of Flood Affected Community in Bago, Soe Soe Tun, 神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻(北後)

災害時における自動車を使用した避難の可能性に関する研究, ZHANG YUYING, 神戸大学大

学院国際協力研究科地域協力政策専攻（北後）

リスク・コミュニケーション研究部門

Seq2Seq雑談対話における話題の関連性改善のための知識グラフを用いたデコード戦略, 麻生大聖, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻（滝口・高島）

母音の発音と歌唱速度の変化を考慮したアカペラオペラ歌声合成, 片平健太, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻（滝口・高島）

ドメイン適応を用いた三次元神経細胞のセグメンテーション, 小山詠未, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻（滝口・高島）

機械学習を用いた昆虫の季節性モニタリングシステムの構築, 谷田啓一, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻（滝口・高島）

Analysis and Optimization of the Computation Resources of Convolutional Neural Networks, 庄緯豪, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻（滝口・高島）

感情・欲求に基づく自発的発話生成雑談対話システムの研究, 薛強, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻（滝口・高島）

Parallel-data-free Voice Conversion Based on Learning Disentangled Representations with Generative Adversarial Networks, 陳訓泉, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻（滝口・高島）

住民行政間のコミュニケーションギャップに着目した河川整備計画妥当性評価の研究, 武部圭悟, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻（大石・梶川）

おろし風の風速増大につながる2山地形の特徴に関する研究, 篠木郁秀, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻（梶川・大石・山浦）

鉛直浸透時のフィンガー流の発生形態と定量的評価に関する研究, 吉牟田峻生, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻（齊藤・大石）

佐用川流域を対象とした複数の流出モデルによる流量将来予測, 川邊 結子, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻（小林）

極端豪雨による妙法寺川・球磨川の出水再現および予測手法の検討, 田村 篤志, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻（小林）

16.3 卒業研究

リスク・アセスメント研究部門

アラスカ沈み込み帯における3次元温度構造モデリング, 岩本 佳耶, 神戸大学理学部惑星学科（吉岡）

2018～2019年豊後水道長期的SSEのすべりの時空間分布の推定, 瀬下 幸成, 神戸大学理学部惑星学科（吉岡）

紀伊半島北部における短期的スロースリップイベントのすべり領域の傾斜データによる制約-すべり領域と微動発生領域の空間的比較-, 副島庸平, 神戸大学理学部惑星学科 (廣瀬)

地盤データの自動構築を目的にした大規模データ検索インベントリ, 伊関 亮太, 神戸大学工学部市民工学科 (橘・飯塚)

新型コロナウイルス感染症緊急事態における大学生の自立への影響・因果分析に基づく学生支援策の提案, 高橋 亮太, 神戸大学工学部市民工学科 (橘・祇園)

突固めたケイ砂混合ベントナイトの水浸膨出挙動, 塚田 健人, 神戸大学工学部市民工学科 (飯塚・橘)

SPH 法における陽解法による土/水連成解析手法, 森 滉貴, 神戸大学工学部市民工学科 (竹山・銭谷)

地盤グリッドモデルに基づく数値解析モデルの自動生成, 田村 彩奈, 神戸大学工学部市民工学科 (飯塚・竹山)

土/水連成動的解析における塑性硬化パラメータ推定のキャリブレーション, 山田 諒太, 神戸大学工学部市民工学科 (竹山・橘)

間隙水圧上昇によるデコルマ形成粘土のせん断挙動シミュレーション, 土居 優斗, 神戸大学工学部市民工学科 (飯塚・橘)

女川町の復興プロセスにおけるコミュニティネットワークの構造の分析, 宇都宮 惇典, 神戸大学工学部市民工学科 (橘・祇園)

ディープラーニングによる画像認識技術を用いた図面要素抽出の研究, 榎谷 英弥, 神戸大学工学部市民工学科 (銭谷・飯塚)

宇宙プラズマ中の磁気リコネクションに対する三次元磁場成分の影響, 名下 宥佑, 神戸大学工学部市民工学科 (銭谷・竹山)

過圧密比の深度分布と地表面における加速度との相関性, 林 勇佑, 神戸大学工学部市民工学科 (銭谷・竹山)

リスク・マネジメント研究部門

重力式堤体の根入れが耐震性能に及ぼす影響, 齋藤菜々子, 神戸大学市民工学科 (長尾)

根入れ式基礎の基礎幅と地盤反力特性の関係, 津田葉涼太, 神戸大学市民工学科 (長尾)

地震動の伝播経路特性およびサイト増幅特性のばらつき評価, 山根佑介, 神戸大学市民工学科 (長尾)

自然災害起因の火災に関する研究, 柴田早織, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

開花の兆～療育を複合した新たな小学校の提案～, 蒲田峻大, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

雪と暮らすー栄村集落再興ー, 滝田兼也, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

梁貫通形式 CFT 柱梁接合部の柱鋼管局所変形に及ぼす軸力の影響に関する実験的研究, 林開利, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

単調載荷時の CFT 柱の曲げモーメントー曲率関係, 益邑菜々子, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

リスク・コミュニケーション研究部門

スタイル変換を用いた走査電子顕微鏡画像の合成, 中嶋彩也香, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

Deep Prior を用いた脳磁図の電流源推定, 山名莉央, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

生成モデルを用いたテキストアドベンチャーゲームにおける対話システムの提案, 片山凌, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

健常者音声モデルの話者適応に基づく脊髄性筋萎縮症者の高明瞭度音声合成, 吉本拓真, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

周波数伸縮による口唇口蓋裂者音声認識のためのデータ拡張, 富士原健斗, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

境界層レーダーを用いた対流性降雨発生前後の渦度観測と解析, 澤田眞子, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

アンサンブル降水予測の不確実性を用いた下水道管理に関する研究, 瀧本真裕, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

神戸六甲山系における地表面温度分布と境界層を突破する上昇流に関する研究, 若谷賢志, 神戸大学工学部市民工学科 (梶川・大石)

三宮地下街の浸水時における避難パターンの比較, 井野川七虹, 神戸大学工学部市民工学科 (小林・大石)

閉鎖性海域における潮流による海底地形の形成機構に関する研究, 乳原材, 神戸大学工学部市民工学科 (内山・大石)

ふた山形状の雨滴粒径分布形成メカニズム解明への試み, 岡崎恵, 神戸大学国際人間科学部 (伊藤真之・大石)

三宮地下街の浸水時における避難パターンの比較, 井野川七虹, 神戸大学工学部市民工学科 (小林)

荒川流域における気候変動による確率水文量の変化分析, 丸山恭介, 神戸大学工学部市民工学科 (小林)

球磨川流域の市房ダム操作に関する研究, 穴瀬博子, 神戸大学工学部市民工学科 (小林)

付録 センター活動の報道記録

神戸大・岩田教授に聞く 行政、病院、市民が取るべき対応とは 新型コロナ拡大
(神戸新聞 NEXT 4/3)

なぜ日本ではコロナウイルス流行が（それほど）起きていないのか、そしてなぜ東京で増えているか。 岩田健太郎先生
(BLOGS 4/3)

ロックダウンはするしないの二元論ではない。「する際の条件」こそが重要である。
岩田健太郎先生
(BLOGS 4/5)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」
クルーズ船問題をさらに検証する 次回、取るべき対策は何か？
(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 4/6)

【識者の眼】「新型コロナウイルス感染症：感染ピークを抑えている？」 岩田健太郎先生
(日本医事新報社 4/11)

感染者たたき、感染者の謝罪は自分たちの首を絞める 岩田教授に聞く「誰でも感染する」
怖さ
(Yahoo!ニュース 4/11)

【緊急!医療崩壊を防げ!!】 岩田健太郎教授「医療崩壊」を防ぐために私たちがたった今するべき「正しい判断」
(BEST TIMES 4/12)

「いじめの構造そのものを、ぶっ壊す可能性を提示しなければならない」——岩田健太郎
教授に聞く
(光文社新書 note4/14)

緊急事態宣言はロックダウンではない、は詭弁 岩田健太郎先生
(BLOGS 4/14)

神戸大病院の岩田医師 山陰の新型コロナ封じ込めはまだ可能と語る【島根・鳥取】
(山陰中央テレビ 4/17)

神戸大の岩田教授、21年五輪開催の可能性に「悲観的」

(AFP BB NEWS 4/20)

岩田健太郎×内田樹 日本のコロナ対応の遅さは「“最悪の事態”想定しないから」

(AERA2020年4月20日号)

「東京はロックダウンすべき、来年五輪が開かれるとは思えず」神戸大岩田教授

(News Weeks 4/20)

来夏の東京五輪開催に「悲観的」な見方 神戸大の岩田教授

(CNN.co.jp 4/21)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」

外に出るな！ どうしても出るなら2メートル離れろ！ 非常時には簡潔なメッセージを

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 4/23)

慶応のPCR6%の意味 岩田健太郎先生

(BLOGS 4/23)

自分と家族を守るための感染症対策、その原理原則【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義①】

(BEST TIMES 4/25)

基礎から学ぶ！「コロナウイルス」って何ですか？【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義②】

(BEST TIMES 4/26)

命を奪うコロナウイルスの登場！ SARS（サーズ）と MERS（マーズ）【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義③】

(BEST TIMES 4/27)

パンデミックと向き合う！ 7番目のコロナウイルス「COVID-19」【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④】

(BEST TIMES 4/28)

日本に残された道はロックダウンしかない理由、神戸大・岩田教授が警鐘

(DIAMOND online 4/28)

新型コロナウイルス感染症は「風邪みたいなもの」だからこそタチが悪い【岩田健太郎教

授・感染症から命を守る講義⑤】

(4/29 BEST TIMES)

新型コロナウイルス感染症を病院ではどう対応するのか【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑥】

(4/30 BEST TIMES)

新型コロナウイルス「感染と若者」の関係はあるのか？【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑦】

(5/1 BEST TIMES)

新型コロナウイルスの感染は「クラスター」が問題です【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑧】

(5/2 BEST TIMES)

岩田健太郎先生「世界中がコロナ甘く見ていた理由」 7 番目のコロナは「時限爆弾」のようなもの

(東洋経済 ONLINE 5/2)

【識者の眼】「PCR 検査をめぐる再混乱—集団的同調圧力で決めてはいけない」岩田健太郎先生

(日本医事新報社 5/2)

重要!!□ 新型コロナ対策「PCR・抗体・CT」検査はよく間違える【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑨】

(5/3 BEST TIMES)

岩田健太郎先生「手指消毒がコロナに 1 番効く理由」
「引き算の発想」欠如が日本人の疲弊を招く

(東洋経済 ONLINE 5/4)

超重要!!□ 新型コロナ対策の戦略は「正しく診断」ではなく、「正しく判断」【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑩】

(5/4 BEST TIMES)

在宅生活こう乗り切る (2) 神戸大学大学院医学研究科教授曾良一郎氏—ネット依存防止、生活リズム大事

(日経 5/5 朝刊)

岩田健太郎先生「よく走る人ほど風邪ひきやすい訳」
「免疫力 UP」の誘い文句は疑ったほうがいい

(東洋経済 ONLINE 5/10)

岩田塾 新型コロナ ゴーニング 岩田健太郎先生

(YouTube 5/12)

復習します!! □ なぜ正しい診断よりも正しい判断が大切なのか【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑪】

(5/14 BEST TIMES)

神戸大学コラム 安心の素 47

予防接種 大人にも必要 都市安全研究センター准教授 大路 剛

(神戸 5/18 朝刊)

ウイルスは自然発生しない! 「感染経路を見つけて、遮断する」原理原則【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑫】

(5/19 BEST TIMES)

岩田健太郎先生「感染症の最前線で働く激しい恐怖」 コロナ禍の今「レストン事件」を振り返る

(東洋経済 ONLINE 5/20)

「①飛沫②接触③空気」感染を理解して感染経路を防御する【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑬】

(5/23 BEST TIMES)

岩田健太郎教授「病院の待ち時間が長い根本原因」諸悪の根源は「医者と患者の共犯」にある

(東洋経済 ONLINE 5/24)

岩田健太郎教授「PCR 検査論争」が不毛な理由 同調圧力が支配する日本の感染症対策を考える

(Buzz Feed News, Japan 5/25)

岩田健太郎教授「高校野球の開催は可能だった」感染症の専門家が語るゼロリスク思考の弊害

(Buzz Feed News, Japan 5/26)

岩田健太郎医師「感染爆発を押さえた西浦博先生の『本当の貢献』とは」【緊急連載①】

(5/27 BEST TIMES)

岩田健太郎医師「日本で感染爆発を押さえられた要因とはなんだったのか」【緊急連載②】

(5/28 BEST TIMES)

岩田健太郎医師「感染対策も分析も西浦先生だけに『依存』してはいけない」【緊急連載③】

(5/29 BEST TIMES)

岩田健太郎医師「科学は検証を経て、真実に少しずつ近づいていく」【緊急連載④最終回】

(5/30 BEST TIMES)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」緩めることと 締めること

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 6/1)

「今はウイルスより人間のほうが怖い」岩田健太郎教授が緊急提言、選手に感染者が出てもJリーグとクラブが全力で守るべき理由

タグマ 6/4

【識者の眼】「定期接種ワクチン：キャッチアップの制度化を」岩田健太郎先生

(日本医事新報社 6/13)

コロナ抗原検査ガイドライン改定の問題点とは 岩田健太郎先生

(BLOGS 6/19)

プールと新型コロナウイルス あるいはスポーツ一般について 岩田健太郎先生

(BLOGS 6/20)

楽器、音楽、コンサートとコロナウイルス 岩田健太郎先生

(BLOGS 6/20)

なぜ、国ごとに差が出たのか。そして第二波がどうなるか。 岩田健太郎先生

(BLOGS 6/23)

検査について 岩田健太郎先生

(BLOGS 6/24)

マスクについて 岩田健太郎先生

(BLOGS 6/25)

検査について、の補足 岩田健太郎先生

(BLOGS 6/25)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」新型コロナ規制緩和 急いで事はし損じる

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 7/2)

【第2波に備えて】なぜ「手指消毒」は今すぐできる「感染経路」ブロック策なのか《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑭》

(7/4 BEST TIMES)

【第2波に備え超重要】みんな疲れることをする！日本の失敗の本質《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑮》

(7/5 BEST TIMES)

岩田健太郎教授 「あらゆる人に検査を」で得られるのは偽物の安心。PCR 検査の特異度が99.9999%でも、議論は変わらない【#コロナとどう暮らす】

(Buzz Feed News, Japan 7/10)

【識者の眼】「意見を表明するということ」岩田健太郎先生

(日本医事新報社 7/11)

「先生こそ同調圧力に屈しないで」 岩田健太郎神戸大教授

(教育新聞 7/13)

岩田健太郎医師「《免疫力》はメンテするものアップなどしません」間違いだらけの感染症対策！【感染症から命を守る講義⑯】

(7/13 BEST TIMES)

29日に神戸新聞情報文化懇話会 神戸大学大学院医学研究科教授 岩田健太郎氏が講演

(神戸 7/15 朝刊)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」 「G o T o トラベル」東京除外は当然 制限緩和は感染を抑え込んでこそ

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 7/17)

コロナで自粛生活 ネット・ゲーム依存への影響は (曾良一郎・神戸大教授)

(神戸 7/19 朝刊)

神戸大学コラム 安心の素 48

地震による液状化被害 大学院工学研究科准教授 竹山 智英

(神戸 7/20 朝刊)

衝撃!! 感染防御の手段としてマスクを着けるのは無意味【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑰】

(7/20 BEST TIMES)

第2波に備えて《新型コロナウイルス感染症対策》を「まるごと」おさらいします!!□【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑱】

(7/23 BEST TIMES)

武庫川の総合的な治水対策シンポジウム (パネリスト:大石哲・神戸大教授など)

(神戸 7/24 朝刊)

コロナ 持続可能な対策を 神戸大大学院教授 岩田健太郎氏が講演

(神戸 7/30 朝刊)

【識者の眼】「リモートワークはなぜ進まないのか—COVID-19 対策には覚悟が必要」
岩田健太郎先生

(日本医療新報社 8/8)

(Jリーグ再開1カ月特集:上) サッカーのある日常、守るために プロから学ぶ感染症対策
(岩田健太郎・神戸大教授)

(朝日 8/11 朝刊)

《失敗の本質》専門家にとって大事なものは結果、すなわち勝っていること【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑲】

(8/11 BEST TIMES)

【シリーズ 疾病と人間】変えるの面倒。喉元過ぎれば熱さを忘れる 日本人 (岩田健太郎・神戸大教授)

(毎日 8/12 朝刊)

《失敗の本質》ダイヤモンド・プリンセスでは「感染管理」ができていなかった【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑳】

(8/13 BEST TIMES)

《失敗の本質》戦慄の形式主義—目的は感染を防ぐこと。PCRの同意書をとることではない【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉑】

(8/16 BEST TIMES)

《失敗の本質》ダイヤモンド・プリンセス船内では感染経路遮断よりもPPEを着けることが目的化という「本末転倒」【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉒】

(8/17 BEST TIMES)

《失敗の本質》ゾーニングはリソースも必要なく理想論でもない！ただ感染経路の知識があればできること【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉓】

(8/18 BEST TIMES)

ゲストは神戸大・岩田健太郎教授 感染対策の疑問&日本のコロナ対応ココが変
(ABEMA NewsBAR 橋下 | 本編 2020年8月22日)

【失敗の本質】「安全を守る目的」より「みんなとの調和」——組織的失敗とは何か《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉔》

(8/25 BEST TIMES)

【失敗の本質】「神話にすぎない」という官僚形式主義がもたらす悲劇の原像《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉕》

(8/28 BEST TIMES)

「死んでもイヤだね!」間違いを認めない官僚組織が国民の生命を脅かす矛盾【75年前の今日：敗戦記念日】《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉖》

(9/2 BEST TIMES)

【識者の眼】「ファクターXは実在しない」岩田健太郎先生

(日本医事新報社 9/5)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」新型コロナ ファクターXは存在するのか
(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 9/7)

【失敗の本質】2009年新型インフルエンザも02年SARSも「水際作戦」は成功していなかった《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉗》

(9/8 BEST TIMES)

【一億総イジメ】握る・潰す・すり替え叩く権力と共犯のメディアと視聴者の欲望サイクル《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉘》

(9/11 BEST TIMES)

【事実隠ぺいの代償】国益に反する厚労省のリスクコミュニケーション失敗《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉙》

(9/16 BEST TIMES)

神戸大学コラム 安心の素 49

災害リスク 定量化の試み 都市安全研究センター教授 飯塚 敦

(神戸 9/21 朝刊)

岩田健太郎神戸大教授 「7日後程度に発症」、4連休中の感染者

(デイリー 9/22)

ゲーム漬け 生活リズム狂い不登校 ネット以外の楽しみ 体験を 神戸大・曾良一郎教授

(朝日 9/22 朝刊)

【繰り返される失敗】目的、意思決定、責任は不透明。あるのは表向きの忖度《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉚》

(9/26 BEST TIMES)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」新型コロナ対策 財政出動から見えてくるもの
(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 10/5)

ハーフタイムの芝生整備に危険も Jリーグのコロナ対策に専門家 岩田健太郎先生
(10/5 共同通信)

【繰り返される失敗】誰がやった(ヒト)が問題じゃなくて、何をやった(コト)が問題だ《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義①》
(10/6 BEST TIMES)

【識者の眼】「起きうることと、起きていること」岩田健太郎先生
(日本医事新報社 10/10)

【正しい判断とは何か】日本の感染対策は全体的にはうまくいっていた・・・《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義②》
(10/13 BEST TIMES)

週刊誌で「新しいダイエット法」が話題になるようなもの？ 医者も誤解する感染症薬の効果と理由 岩田健太郎先生
(10/16 文集オンライン)

フェス、ライブ、クラブ、コンサート 新型コロナと共存しながら実現可能な音楽イベントとは？ 岩田健太郎先生
(10/16 文集オンライン)

新型コロナ「間隔2mが基本。できない際はマスクでリスク低減を」神戸大大学院・岩田教授(神戸新聞 NEXT 10/18)

【意味ある議論の骨法】結果(成功)のための問いを立てる一目的と戦略の視点が大事《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義③》
(10/20 BEST TIMES)

【拡大解釈という無限抱擁】なぜ、日本人の多くは自分で判断することを嫌うのか《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④》
(10/22 BEST TIMES)

日本がコロナ感染拡大を抑えたのは「偶然」？ 内田樹×岩田健太郎対談
(10/22 aera dot.)

【想定内のウソ】官僚が事実と数字を隠すとき「事大主義」となり、その忖度の犠牲は民が背負う悲劇《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑤》
(10/24 BEST TIMES)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」臨床検査学を学ぶということ 新型コロナをめぐる誤解と理解
(11/2 YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター)

【識者の眼】「たくさんあるは、たくさんはない」岩田健太郎先生
(日本医事新報社 11/7)

【第3波に備えて】油断大敵! 感染対策において局地的な戦術を勝利に結びつけるために、全体の戦略でしくじらないこと《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑥》
(11/9 BEST TIMES)

岩田健太郎教授 五輪組織委の対応「欺瞞」…五輪外国人客に14日間の待機免除に
(11/12 デイリー)

神戸大学コラム 安心の素 50
住む街の特徴を知ろう 高等研究院未来世紀都市学研究アライアンス特命講師 小代 薫
(神戸 11/16 朝刊)

【第3波と向き合う】新型コロナウイルスと中国の経済大国化【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義⑳】
(11/17 BEST TIMES)

県功労者 232人を表彰 室崎益輝・神戸大名誉教授ら
(朝日 11/19 朝刊)

岩田健太郎先生「新型コロナの流行を機に、エターナルに変わるべきこととは」
(11/22 note)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」Go Toと感染者増 「主要な原因」との証拠はなくても
(11/27 YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター)

【第3波と向き合う】新型コロナウイルス問題を隠すことで得られる合理的な利得はないという中国の「社会（信用）観」【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉑】
(11/29 BEST TIMES)

幻想と欲望のコロナウイルス、という不都合な真実について 岩田健太郎先生
(BLOGS 12/2)

CDCのフィールド疫学マニュアルできました。 岩田健太郎先生
(BLOGS 12/3)

【識者の眼】「Go Toが広げるコロナの『ノリ』」岩田健太郎先生
(日本医事新報社 12/5)

ゲーム障害「自分が怖い」生活破綻、治療長期化も（コメント：曾良一郎・神戸大教授）
(産経 12/4 夕刊)

【第3波と向き合う】世界的に見たら、じつは医師の数は女性のほうが多い事実—日本におけるシステムの不備【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義㉒】
(12/7 BEST TIMES)

インフルエンザについて 岩田健太郎先生
(BLOGS 12/11)

「ファクターXは幻想だ」岩田健太郎医師が説く“with コロナなどありえない理由”
(12/13 文集オンライン)

「パンデミックの教訓」最前線医師が報告。宮崎大学では、12日、全国各地で新型コロナウイルスの治療に携わる医師による緊急シンポジウムが開かれました。感染が拡大する…
大路剛先生ご出演
(12/14 宮崎テレビ)

【第3波を乗り越える】「病院の待ち時間」と「満員電車」の共通点—思考停止を生む共犯関係【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④⑩】

(12/17 BEST TIMES)

東京五輪、世論が開催賛成のほうに変わるとは到底思えない 岩田健太郎先生

(12/20 NEWS ポストセブン)

【第3波を乗り越える】「ギリギリまで頑張る」リスクから「みんな違うことを認め、休む」安全へ！ 余裕のある組織づくりへ《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④⑪》

(12/22 BEST TIMES)

コラム Dr.イワケンの「感染症のリアル」新型コロナのウイルス変異 英国はなぜ強力な対策を取ったのか

(12/23 YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター)

【第3波を乗り越える】「正しいか、間違いか」よりも「みんなが同調しているか」で物事を決めてしまう日本の特徴【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④⑫】

(12/24 BEST TIMES)

医師たちが明かす、コロナ「感染とワクチン」後遺症のヤバすぎる実態 岩田健太郎先生

(12/24 現代ビジネス)

進む新型コロナのワクチン開発…感染症医が「接種開始後に“混乱”が起こります」と断言する理由とは 岩田健太郎先生

(12/26 文集オンライン)

感染者数を伝えるだけでは意味がない？ 岩田健太郎医師が語る“新型コロナ”報道の正しい受け止め方 岩田健太郎先生

(12/26 文集オンライン)

【第3波を乗り越える】正しいことをやってると信じている全体主義ほど、恐ろしいものはない《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④⑬》

(1/2 BEST TIMES)

「医療崩壊しないと伝わらないのか」 岩田教授の警鐘

(朝日新聞 DISITAL)

【1都3県・緊急事態宣言】こんなにコロナ禍の情報が溢れているなかで「信頼できる」情報源とは何か《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④⑭》

(1/7 BEST TIMES)

きょう1都3県に「緊急事態宣言」へ 情報ライブ ミヤネ屋ご出演 岩田健太郎先生

(1/7 読売テレビ)

「“with コロナ”は間違った概念。とにかく感染者を減らすこと」 緊急事態解除“1日500人”の基準に神戸大・岩田教授「もっと減らすべき」

(1/9 ABEMA TIMES)

【識者の眼】「医療崩壊というリアルなシナリオ」 岩田健太郎先生

(日本医事新報社 1/9)

成人式には行かないで 岩田健太郎先生

(BLOGS 1/10)

「成人式には行かないで」 専門家が警鐘 都会から田舎にコロナ持ち込まれるリスク
岩田健太郎先生

(1/10 JCAST ニュース)

「成人式には行かないで」 神戸大・岩田教授が自粛呼び掛け 家族らにうつすリスク警告

(1/10 神戸新聞 NEXT)

成人式は「一人、決意して独り立ちする日」 コロナで中止・延期に芸能界から多くの声
岩田健太郎先生

(1/11 JCAST ニュース)

【非常事態宣言下の感染管理】 求めるべきは安心ではなく、安全 《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④》

(1/11 BEST TIMES)

【非常事態宣言下の感染管理】 どんな感染症にも向き合える心構えとは「事実を見据えた上で、それでもやる」 勇気！ 【岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④】

(1/14 BEST TIMES)

アングル：昨秋までの成功で準備不足、強烈なコロナ第3波

(1/15 REUTERS)

特別番組「バトン1.17～パンデミック時代のあなたへ～」 未来の防災・減災につながる最先端の研究 理化学研究所や神戸大学、阪神高速道路によるスーパーコンピューターを活用した災害シミュレーションを取材。未来の防災・減災につながる最先端の研究とは？ 飯塚敦先生、大石先生他 ご出演

(1/17 サンテレビ)

「玉木正之のスポーツ萬歳」に、神戸大学病院感染症内科教授・診療科長の岩田健太郎氏と、ジャーナリストの木村元彦氏と、スポーツライターの小林信也氏が生出演します！

(1/18 情熱報道ライブ「ニュース・オブエド」)

コロナで疲弊する病院 現場の負担、省く支援を 神戸大大学院教授・岩田健太郎

(1/21 毎日新聞 会員限定有料記事 東京夕刊)

五輪強行は「悪いギャンブル」＝岩田・神戸大大学院教授

(1/22 REUTERS)

【非常事態宣言下の感染管理】 間違いよりも、自分の間違いをすぐに認めて前言撤回できる、朝令暮改できることが大事 《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④》

(1/28 BEST TIMES)

「国産」びいきはないのか イベルメクチンと新型コロナ 科学的データに基づく議論を
岩田健太郎先生

(1/28 YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター)

作戦は失敗した。「ゼロコロナ」目指せ 神戸大教授 岩田健太郎氏

(神戸 1/29 朝刊)

【非常事態宣言下の感染管理】知性に対する信頼があるからこそ、ヒューマニティーに対する信頼の土台が生まれる《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④》
(2/1 BEST TIMES)

岩田健太郎氏が警鐘「日本のコロナ対策にはビジョンがなく場当たりの、その場しのぎ」
(2/1 日刊ゲンダイ DIGITAL)

死亡者は年間約 2800 人…日本で「子宮頸がんワクチン」が広まらなかった代償
岩田健太郎先生
(2/3 文集オンライン)

【識者の眼】「ワクチン後進国の悪名を払拭できるのは医者だ」岩田健太郎先生
(日本医事新報社 2/6)

食事中は完全に会話ナシ「黙食」の効果 お互いに顔を見合わせて「おいしいね」
〈AERA〉 岩田健太郎先生
(2/9 AERAdot.)

緊急事態「解除要請」の行方“コロナワクチン”素朴な疑問徹底解説』 情報ライブ ミヤネ屋
ご出演 岩田健太郎先生
(2/10 読売テレビ)

“変異株”にもワクチン有効？岩田健太郎教授「急に効かなくなることは滅多にない」
(2/18 MBS ニュース)

新型コロナ「抗原検査キット」が、まさかの「大量廃棄」される事態になっていた
岩田健太郎先生
(2/23 現代ビジネス)

【コロナ禍で見た知性の本質】どんな感染症にも向き合える心構え——考え続けること
《岩田健太郎教授・感染症から命を守る講義④最終回》
(2/27 BEST TIMES)

岐路の風景：被災の歴史資料救出「史料ネット」 「阪神」契機に活動、四半世紀 地域の記憶守り再建支える 奥村弘・神戸大教授
(3/6 毎日々刊)

「ゼロコロナ」の達成は絵空事か 流行地との往来を制限 岩田健太郎先生
(3/1 YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター)

ぼくが感染症の専門医になった理由 岩田健太郎・神戸大教授のメッセージ
(3/5 時事メディカル)

【識者の眼】「嘘をつかなければ良いのか」岩田健太郎先生
(日本医事新報社 3/6)

「スポーツイベントは感染リスク要因、ものすごくハードルが高い」東京オリンピック・パラリンピックの“有観客開催”に岩田健太郎教授
(3/9 ABEMA TIMES)

「メリットの方がはるかに大きい場合は推奨すべきという理性、知性がないがしろにされてき

た」日本人のコロナワクチン不安に岩田健太郎教授

(3/9 ABEMA TIMES)

“軍事的思考”が感染症対策でも大きな柱になる…橋下氏と岩田健太郎教授が対談

(3/9 ABEMA TIMES)

目指すべきは“ゼロコロナ”か、それとも“ウィズコロナ”か? 橋下氏と岩田健太郎教授が白熱

(3/9 ABEMA TIMES)

「延長は諸刃の剣」緊急事態宣言2週間延長に感染症専門家が危機感…政治のリーダーシップには「絶望的」と苦言 岩田健太郎先生

(3/9 ABEMA TIMES)

(東日本大震災10年) 次の複合災害に備え、真に強靱な社会を 石橋克彦・神戸大名誉教授に聞く

(朝日 3/11 朝刊)

被災地思う言葉 神戸から今年も 赤崎にボード提示 松岡広路先生

(3/11 岩手日報)

緊急事態宣言、専門家10人中9人が「解除すべき」! 番組取材で明言「同じ政策もう限界」岩田健太郎先生 「スッキリ」ご出演

(3/16 日本テレビ)

感染症専門家「日本は感染者を数えているだけ」 梅毒やエイズ流行の時代から繰り返されてきた“失敗” 岩田健太郎先生

(3/19 ABEMA TIMES)

「ワクチンで集団免疫」可能か 神戸大大学院 岩田健太郎教授に聞く

(毎日 3/19 朝刊)

「コロナゼロ」を目指せ 神戸大大学院 岩田健太郎教授に聞く

(毎日 3/20 朝刊)

神戸大学コラム 安心の素 51

地震保険普及へリスク分析 大学院工学研究科教授 織田澤利守

(神戸 3/22 朝刊)

医師・岩田健太郎「空虚すぎた菅政権『五つの方針』。五輪開催はインポッシブル」

(3/25 AERAdot.)

子どものネット利用考える 府、フォーラム動画配信 曾良一郎・神戸大教授と竹内和雄・兵庫県立大准教授

(朝日 3/27 朝刊)

